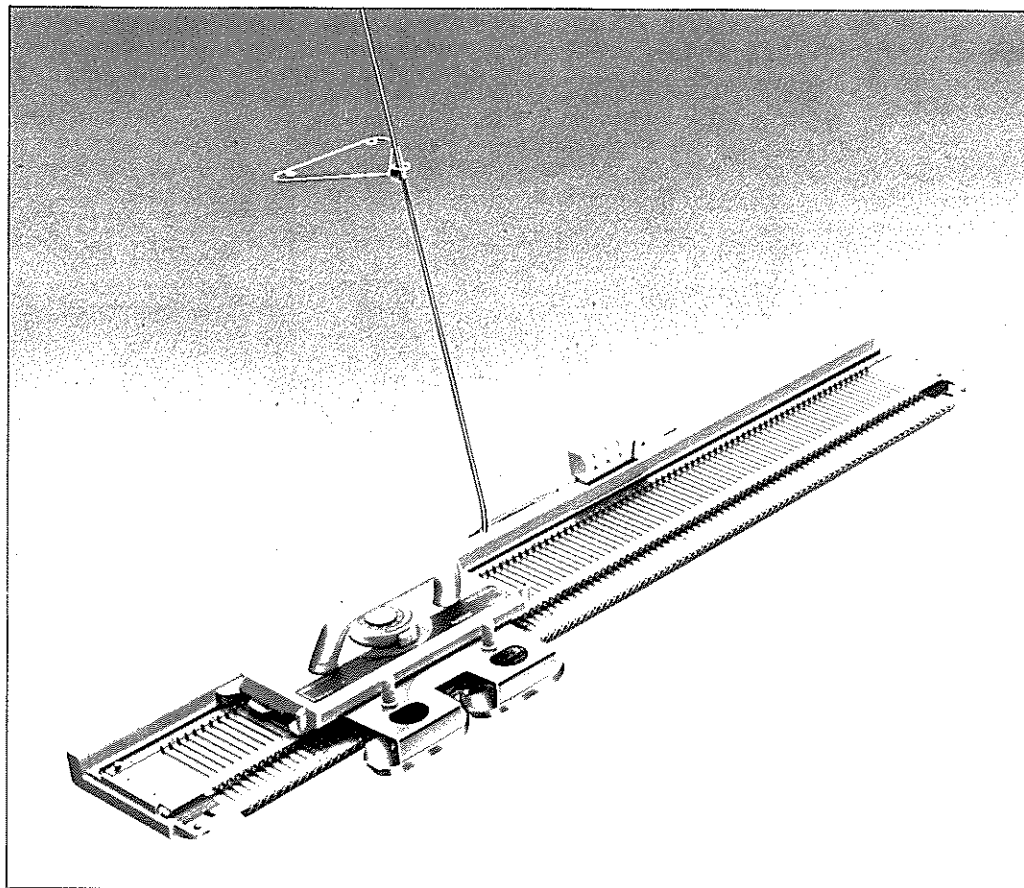


brother

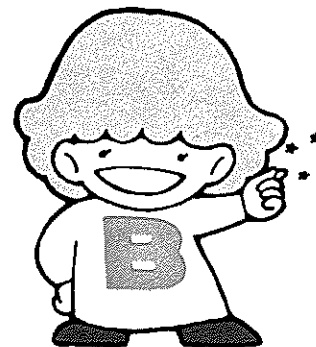


太糸編機



KH-230

取扱説明書



お買い上げまことにありがとうございます。この製品のすばらしい性能と、その正しい使い方をご理解いただくために、この《取扱説明書》を最後までよくお読みください。

お読みになったあとは、保証書とともに、必ず保存してください。

①模様編

②なわ編

③引返し編

④1目ゴム編



各部の名称と組み立て方.....	1~3
しまい方.....	4
編糸のかけ方.....	5
編み始め.....	6~8
平編.....	9

⑤

知っておきたい編物知識

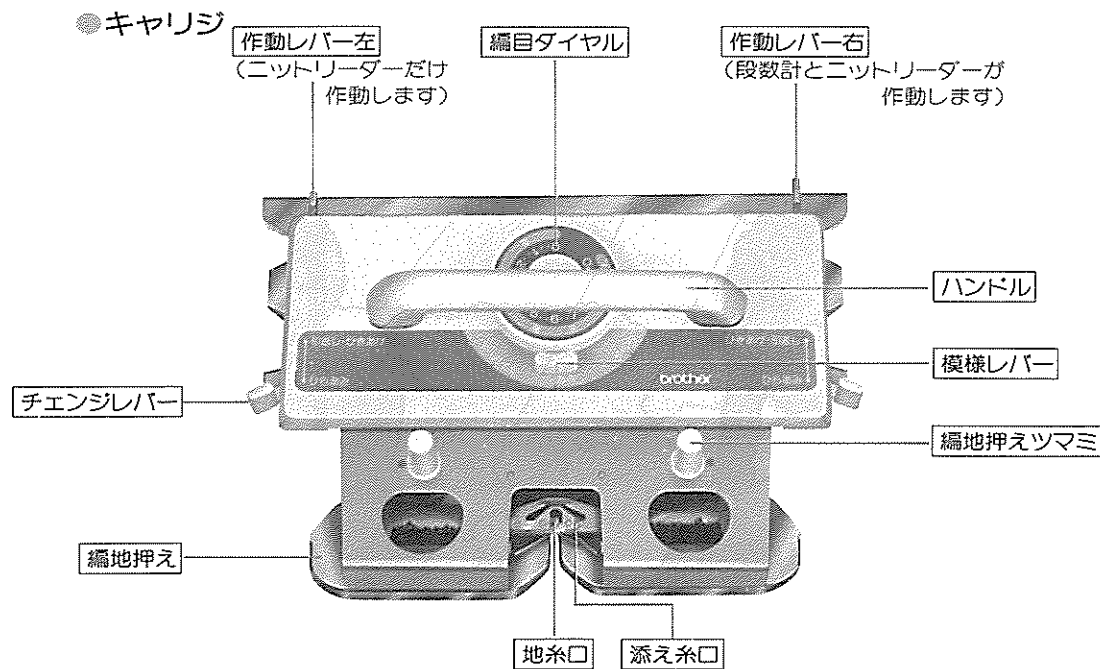
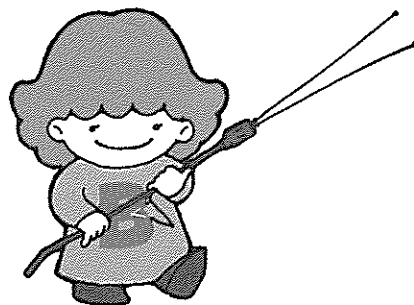
ウツシの使い方.....	18
タツビの使い方.....	18
⑥編目の増し方.....	19
⑦編目の減らし方.....	20
⑧引返し編(平編の引返し編).....	21~22
⑨1目ゴム編.....	23
⑩なわ編(交差模様).....	23
1目ゴム編止めからの編み出し方.....	24
捨て編.....	24

増し目⑥ ⑦減らし目



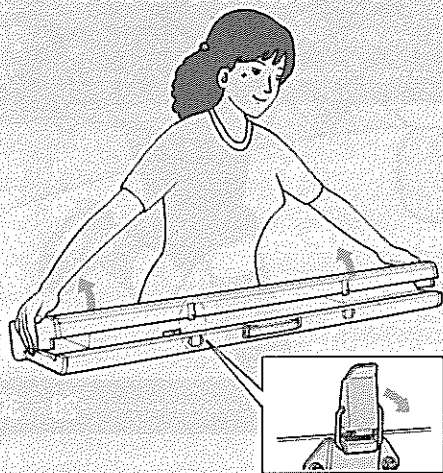
各部の名称と組み立て方

さあ、
始めましょう。

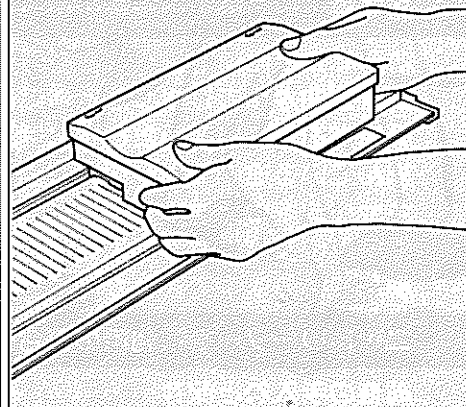


1 ケースをはずします

取手を向こう側にして置き、錠前をはずして手前に引きます。

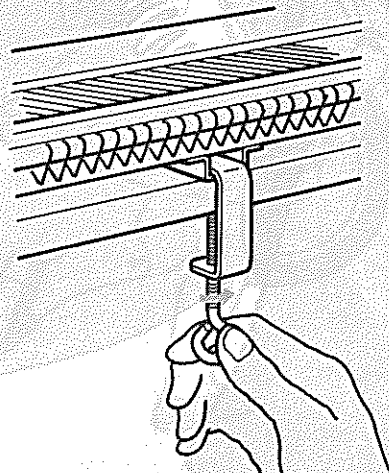


2 部品箱と編目スケールをはずします

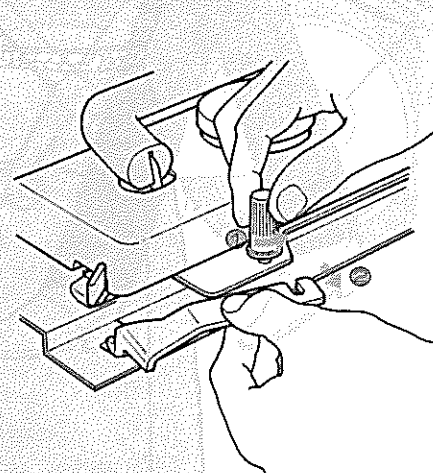


3 編機をテーブルに固定します

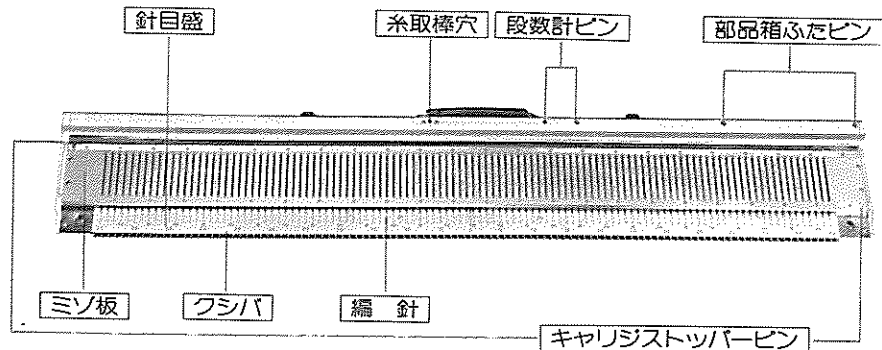
部品箱から取付金具2個を取り出して固定します。



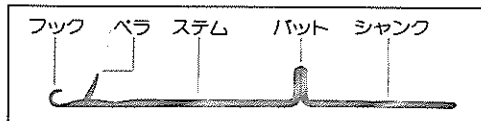
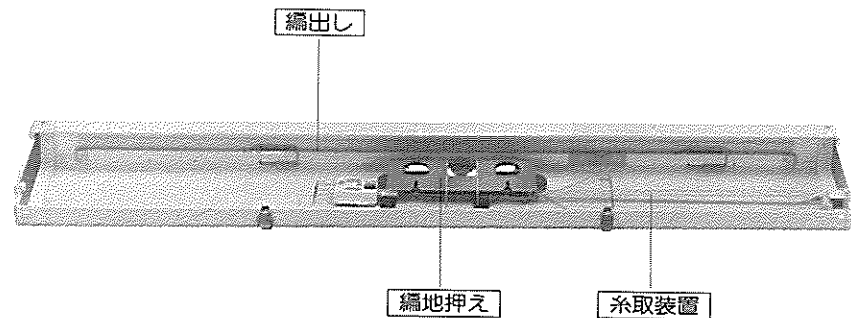
4 キャリジ止め金をはずします



●本体

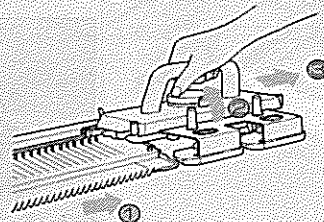


●ケース



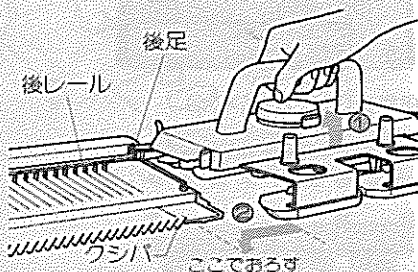
※キャリジを本体からはずすには……

キャリジをキャリジストッパービンに当たるまで動かし、手前を持ち上げてはずします。



※キャリジを本体にはめるには……

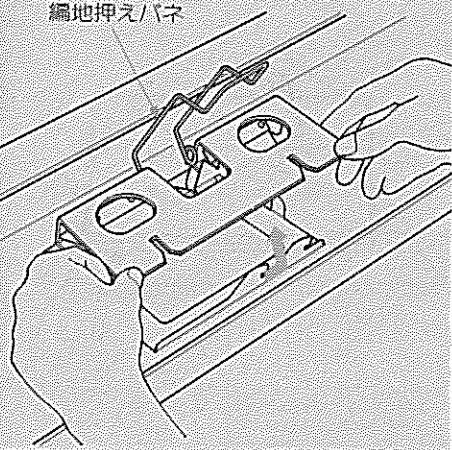
キャリジの後足を後レールにはめ、手前を持ち上げたままフシバの手前まで滑り込ませておろします。



5 編地押えを取り出します

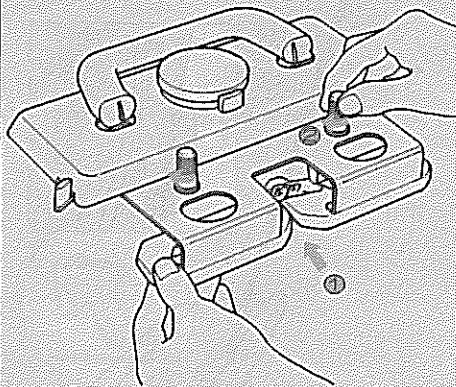
ケース内側の編地押えパネをひらいて取り出します。

編地押えパネ

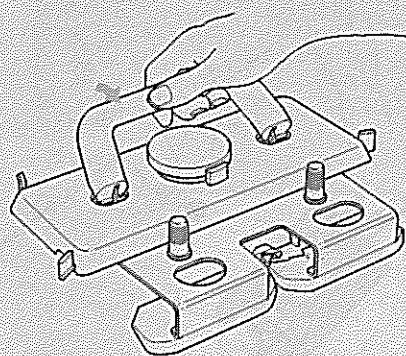


6 編地押えを取りつけます

左右のツマミをゆるめ、いっぱいに差し込んで締めます。

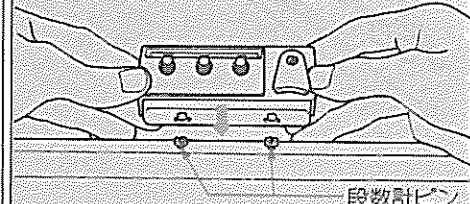
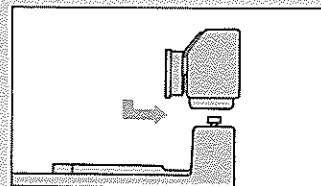


7 ハンドルを起こします



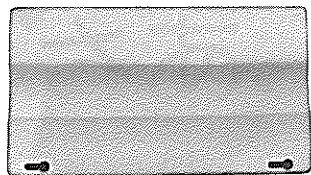
8 段数計を取りつけます

段数計ビンに合わせ、向こう側へいっぱい押しつけます。

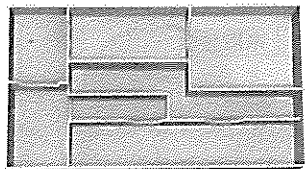


●付属品

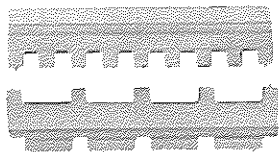
部品箱ふた



部品箱



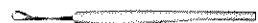
模様板(0× $\frac{1}{4}$ ・ $\frac{1}{3}$ × $\frac{1}{4}$)



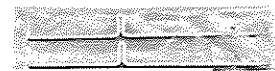
ウツシ(2×3・1×3・1×2)



タッピ



編針(予備)



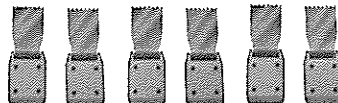
カギ針



トジ針



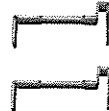
カラーウェイト



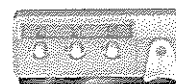
取付金具



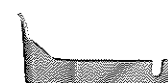
リーダー取付金



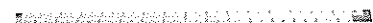
段数計



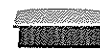
キャリジ止め金



編目スケール



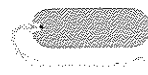
手バケ



手入れ油



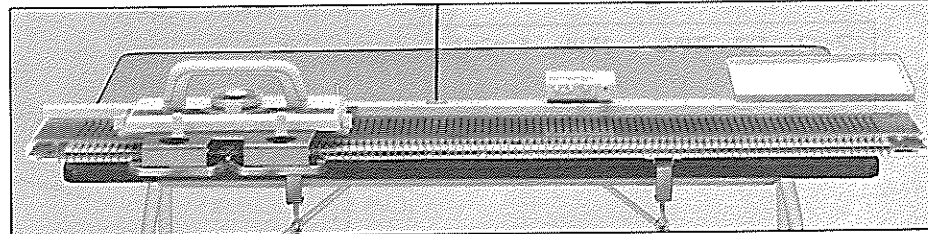
名札



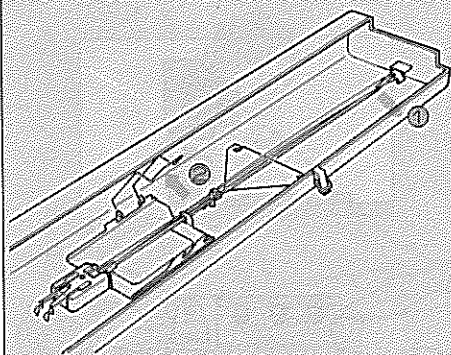
抜き糸



組み立てた状態

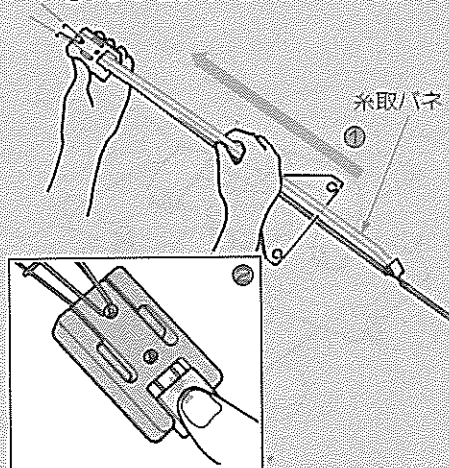


9 糸取装置を取り出します



10 糸取装置を組み立てます

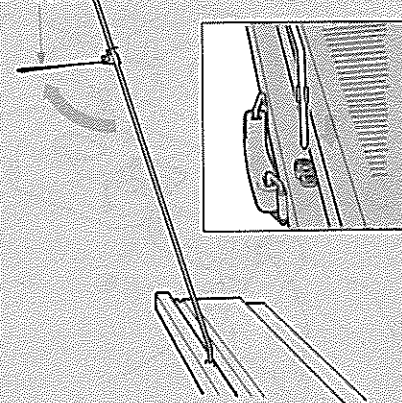
- ①糸取パネを押し出し
- ②テンションケースにはめ込みます。



11 糸取装置を差し込みます。

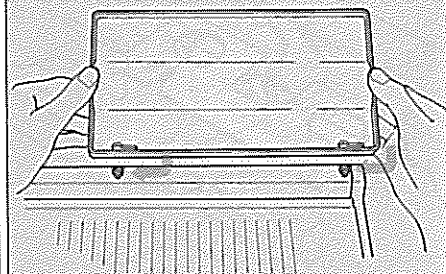
後糸案内も起こしておきます。

後糸案内



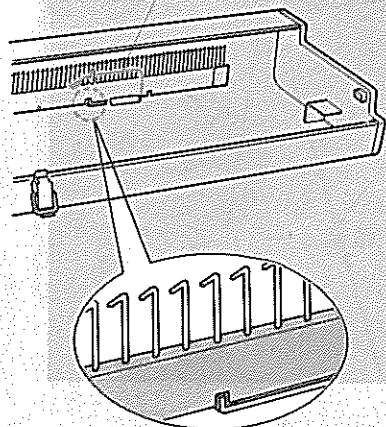
●部品箱ふた

部品箱ふたを取りつけ、小物入れに使います。

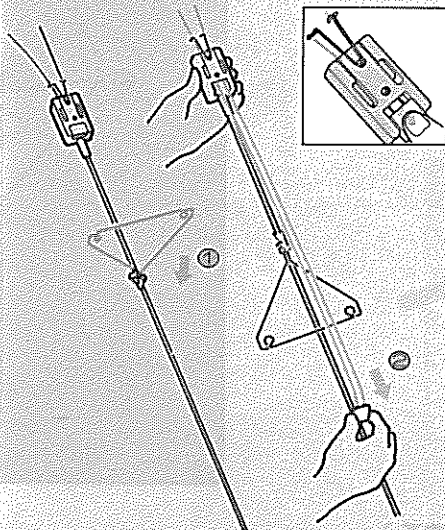


- 1 連結した編出しのフック部を向う側にし、切り欠き部を合わせて置き、編出し押えパネ（2箇所）をかけます。

編出し押えパネ

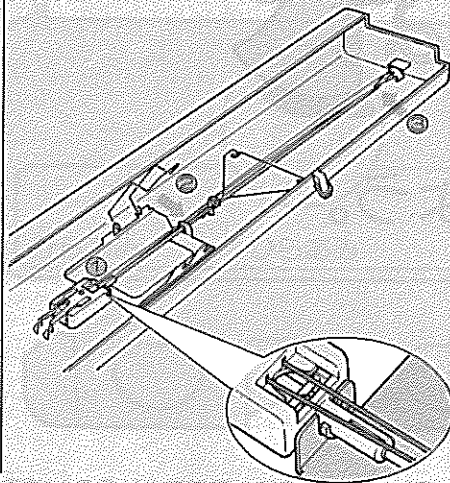


- 2 後糸案内を倒し、糸取パネを引きます。

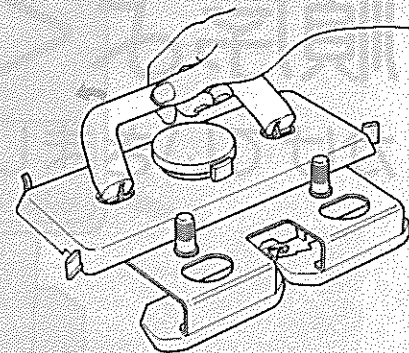


- 糸取装置をケースにおさめます。

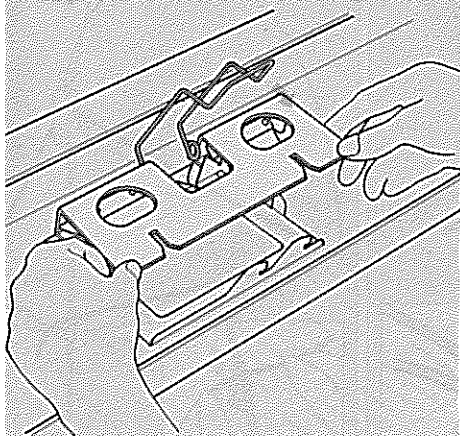
※このとき糸取パネを後糸案内の下へ入れてください。



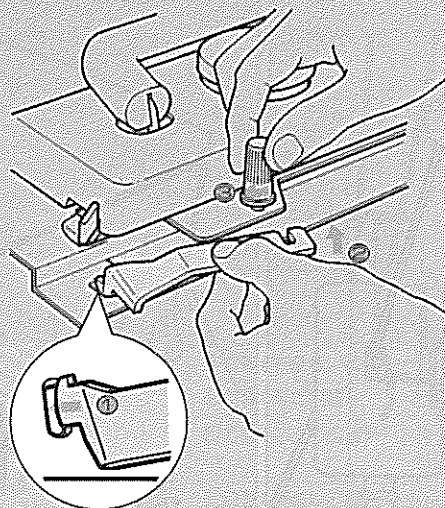
- 3 ハンドルを倒します。



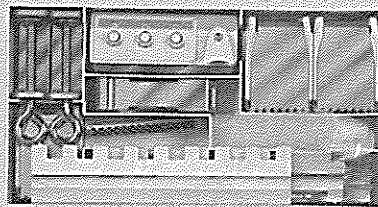
- 4 キャリジから編地押えをはずし、ケースにおさめます。



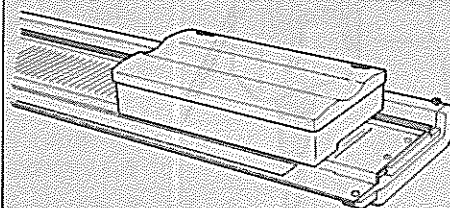
- 5 キャリジを左端へ移動し、キャリジ止め金で固定します。



- 6 テーブルから取付金具をはずし、他の部品（段数計など）とともに部品箱におさめます。



部品箱は右端を右54の針ミソに合わせて置きます。



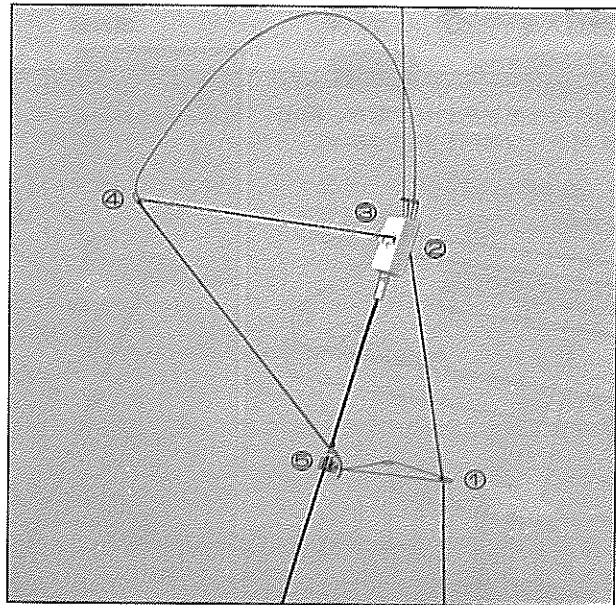
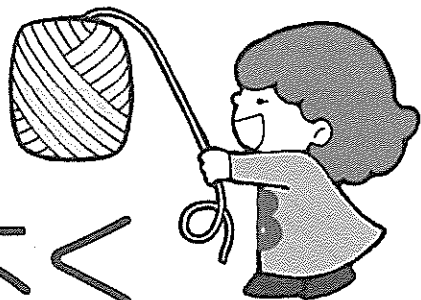
- 7 ケースを斜めにして、そのまま押しつけ錠前をかけます。



編糸のかけ方

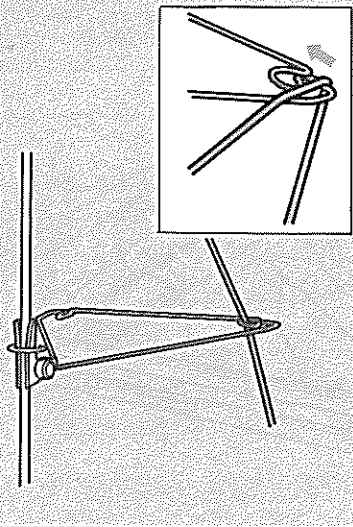
糸を 順序よく

かけていきましょう。

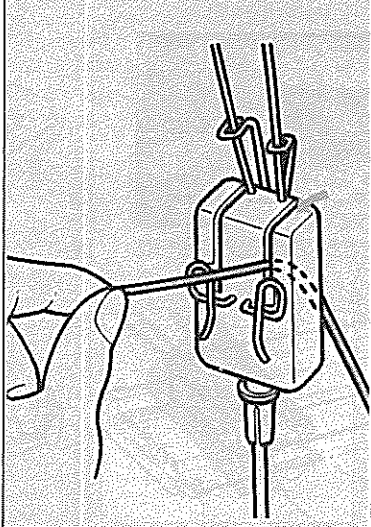


●ここでは極太毛糸を使ってみましょう。(糸取装置には左右に2本、同様にかけることができます。)

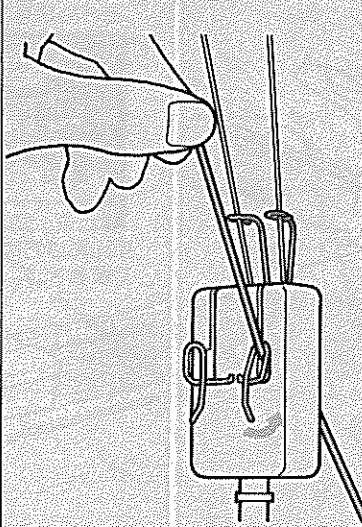
1 後糸案内にかけます



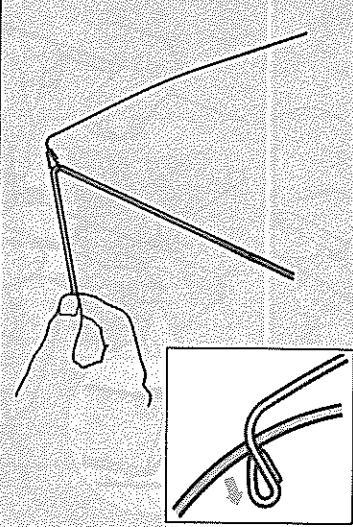
2 テンションケースへかけ



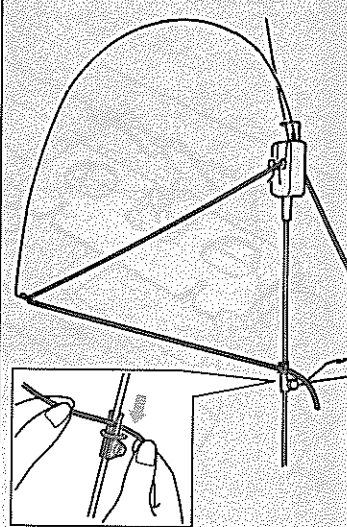
3 前糸案内にかけます



4 糸取バネにかけます



5 糸カケに休めます



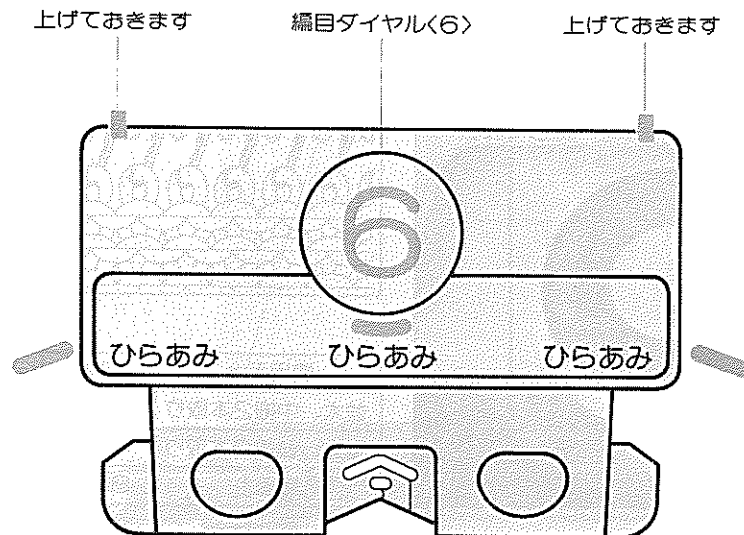
編み始め

正しく

セットしましょう。

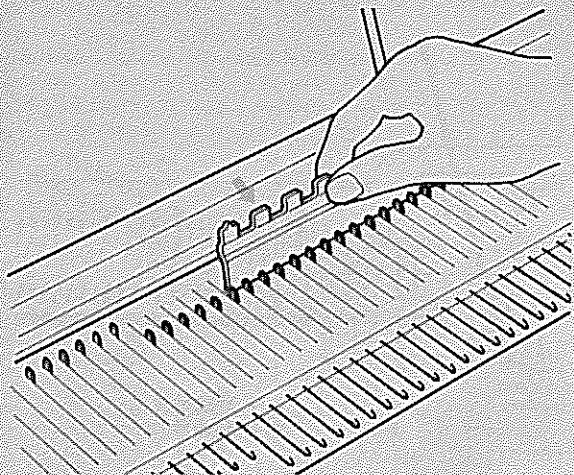


● 編み始めのキャリジのセット



1 編針をB位置(編む位置)へ出します

模様板をつかって、針目盛の中心より左20~右20(40本)の編針を出します。



ミゾ板の左右の端に示してある編針の位置によって、いろいろな編み方ができます。



A位置(あまない位置)……キャリジを操作しても編めません。

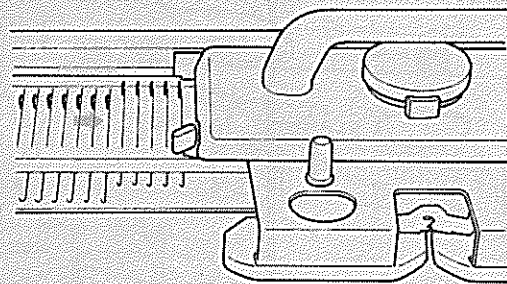
B位置(あむ位置)……普通この位置で編みます。

D位置(もよう位置)……アーガイル編・すべり目編・配色すべり目編に使用する位置です。

E位置(引返し位置)……引返し編・引上げ編に使う位置です。

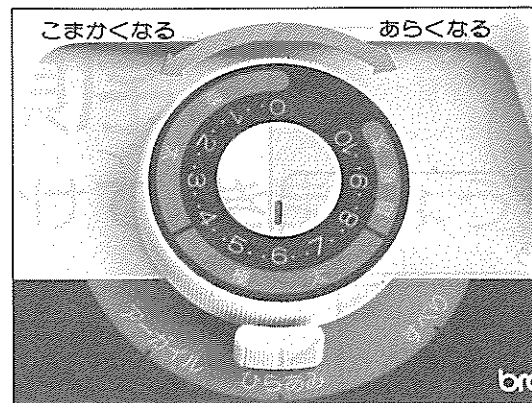
2 キャリジを右端へ移動します

B位置に出した編針をそろえるため、キャリジを左右に1~2回動かし、ミゾ板の右端に置きます。

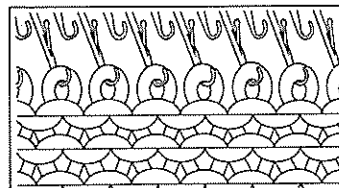


● 編目ダイヤル

編糸に応じて編目の大きさを調節します。ダイヤルの数字または●印を、中央部のⅠ印に合わせます。



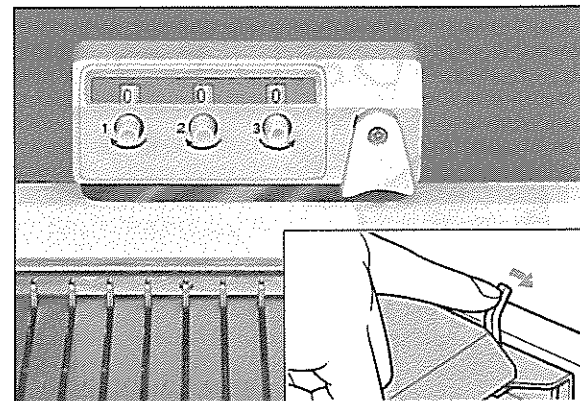
※超極太毛糸は、色々な種類がありますので、糸によっては編針を1本おきに出して編みます。



使用毛糸	目盛
並太、中細2本取り	0～4
極太、並太2本取り	4～8
超極太	8～10

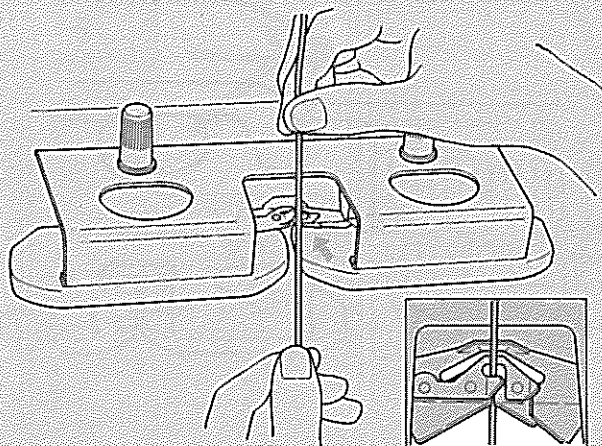
● 段数計

「0」に合わせるときは、左側から順に矢印の方向に向わせませす。段数計を使うときは、作動レバー右を下げます。



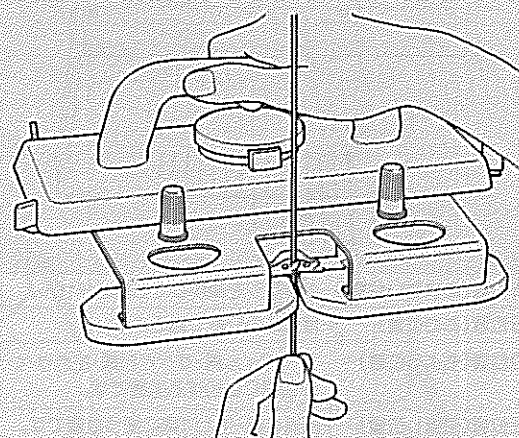
3 地糸口に編糸を入れます

編糸を糸カケからはずし、地糸口に入れます。



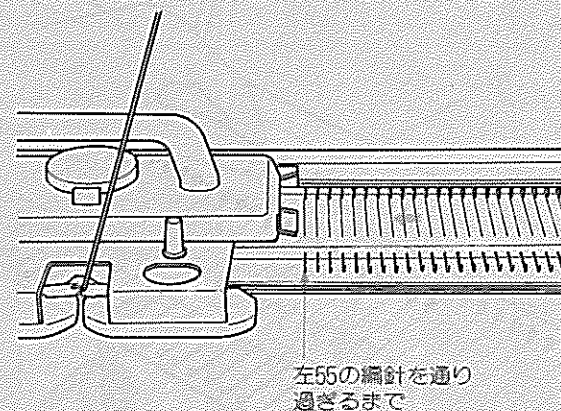
4 糸端を持ったまま

糸端を軽く真下に引くように持ちます。



5 キャリジを左端まで移動します

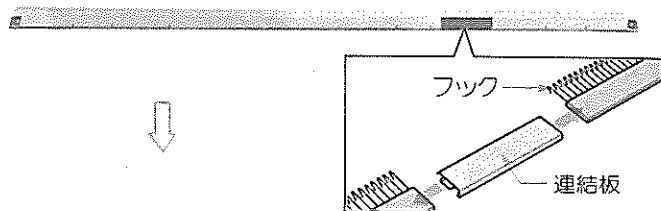
編糸が編針にかかったら糸端をはなします。



● 編出しの使い分け

連結板をはずして80目、30目の長さにも使い分けることができます。

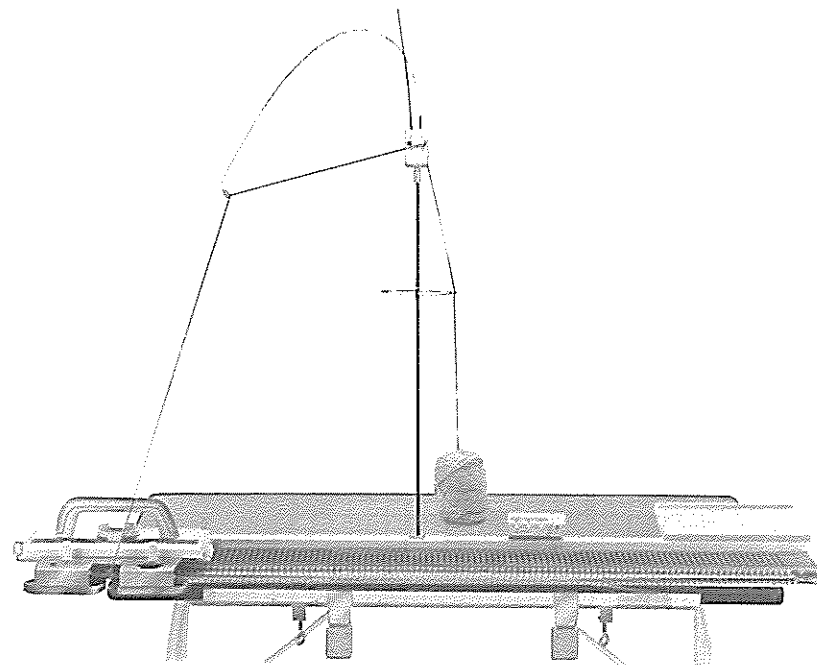
● 110目



● 80目

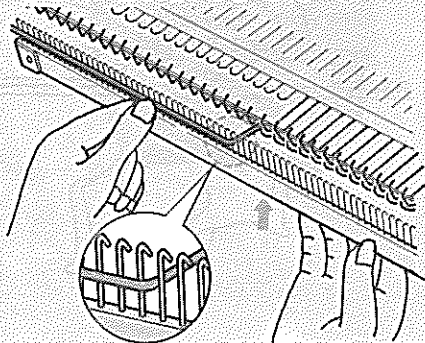


● 30目

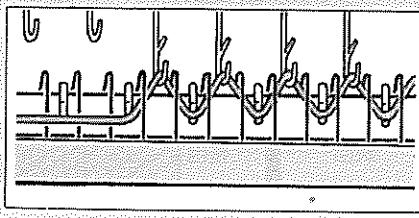
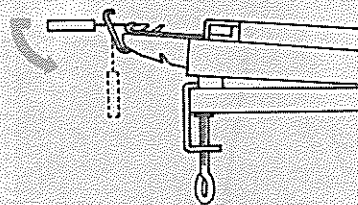


6 編出しをかけます

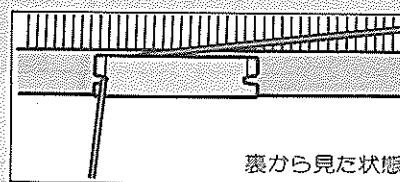
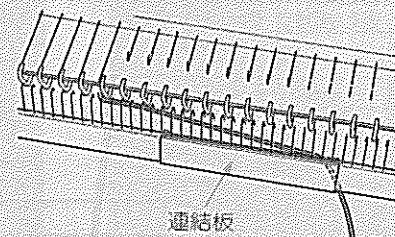
- ① ケースから編出しを取り出し、80目の編出しにします。連結板は右端に出ないようにつけておきます。
- ② 編出しのフック部先端を編機側にし、編幅に対して左右均等な位置に持ちます。
- ③ 編まれていない編糸をつまんで手前に引き、編出しを下から入れます。



- ④ 編出しを編機と水平にし、編まれた編糸に編出しのフックをかけ、下へ引きます。



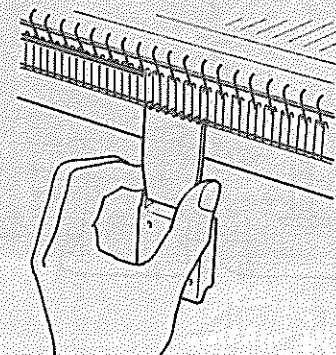
7 糸端を連結板にかけます



8 カラーウエイトをかけ準備完了

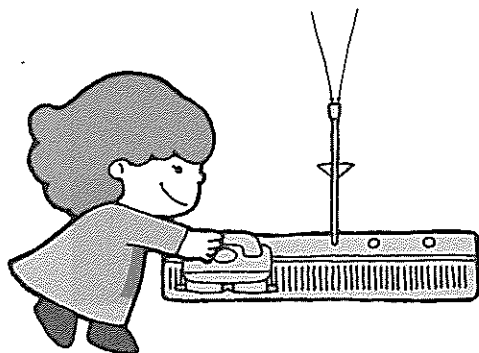
糸と目数に応じて、編出しに均等にかけます。

	1~30目	31~80目	81~110目
並太	2	2	3
極太	2	3	4
超極太	3	4	4



平 編

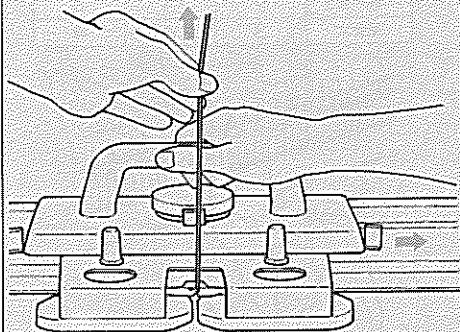
編んで みましょう。



★編機の基本的な取り扱いはおわかりいただけましたか。

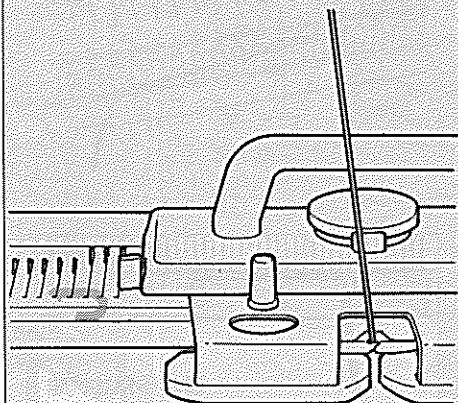
1 キャリジを右へ移動します

編糸がたるみやすいので引き上げながら移動します。



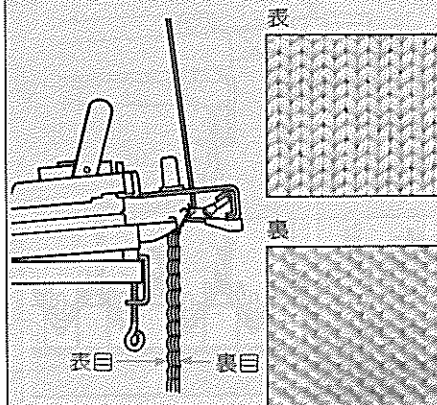
2 キャリジを左へ移動します

B位置の編針を通り過ぎた位置で折り返します。



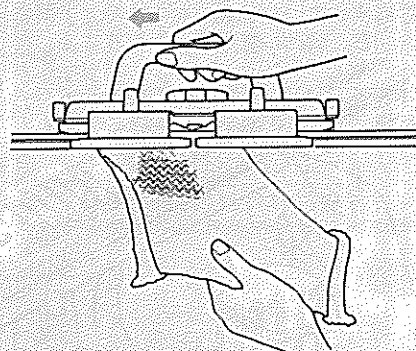
3 平編を編みます

キャリジを左右に繰り返し操作をして編みます。



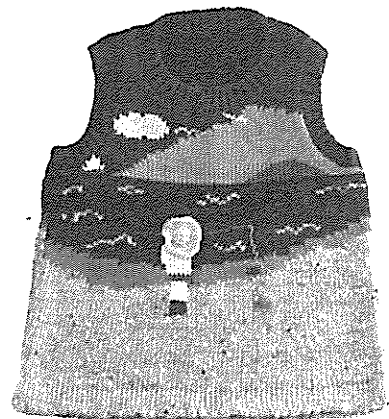
●編み終わったら

編出しとカラーウェイトをはずし糸口の編糸をはずして切り、キャリジを移動して編地をはずします。



アーガイル編

- 裏面に編糸を渡らせない編み方です。
- ここでは極太毛糸を使って編んでみます。



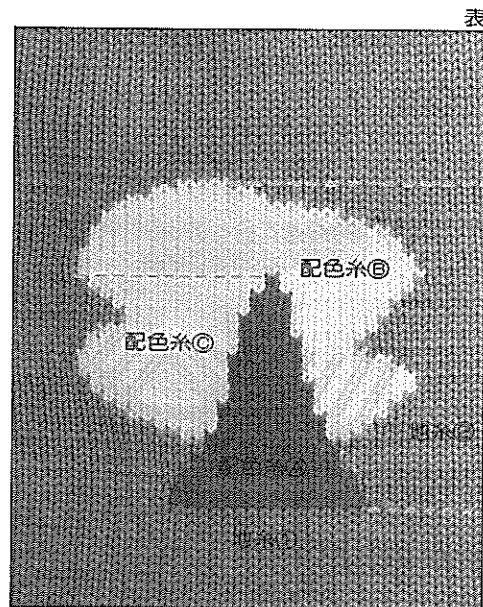
●1段の間で何色でも編め、しかも変化のある模様を好みの大きさに編むことができます。

●図案は、お好みにより自由にお決めください。楽しい図案を考えていろいろ編んでみましょう。

※編糸の本数は、色数に関係なく、編糸を交換する回数分だけ用意します。

※アーガイル編操作表やニットリーダーを使って編みます。

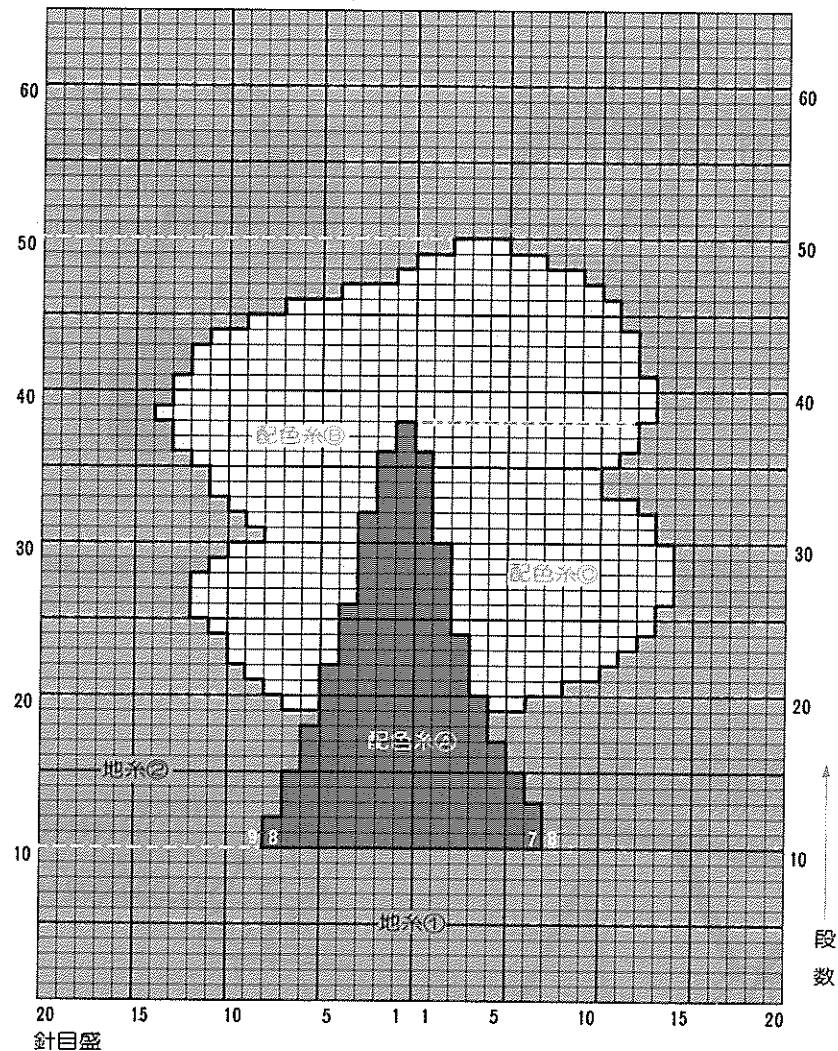
※作品の編地全体がアーガイル編になる場合は、アーガイル編の操作に従って編ゲージを作ります。



地糸……極太 編目ダイヤル……6
配色糸……極太

アーガイル編操作表

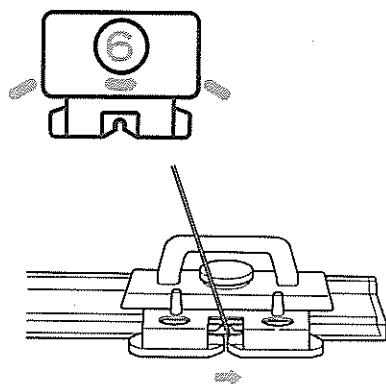
できあがりとは反対に描きます



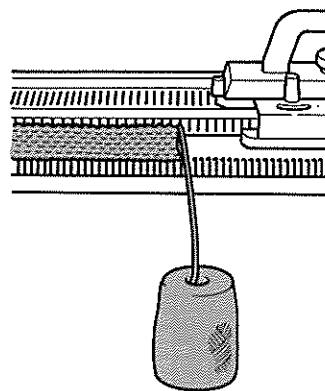
アーガイル編操作表を見て編んでみましょう

1～10段

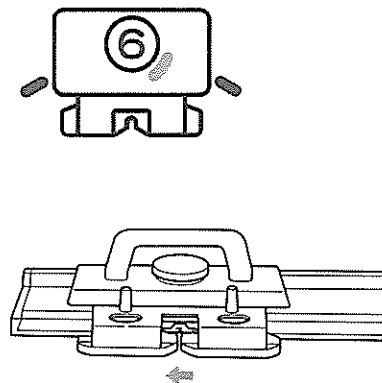
1 中心より左右20本の編針をB位置に出し、編目ダイヤル〈6〉で10段平編を編んでキャリジを右端へ置きます。



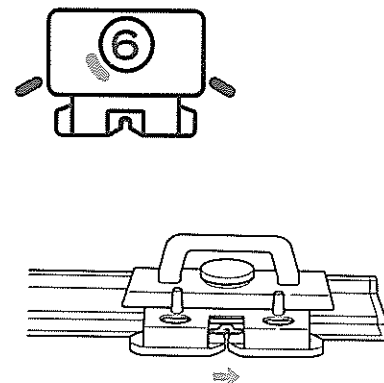
2 編糸を糸取装置、地糸口からはずして足もとに置きます。



3 模様レバーを〈くすべり〉にし、キャリジを左へ移動します。

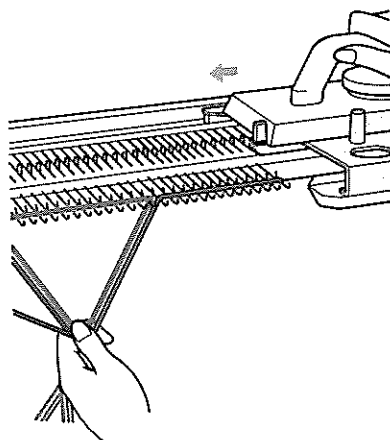


4 模様レバーを〈アーガイル〉にし、キャリジを右へ移動します。

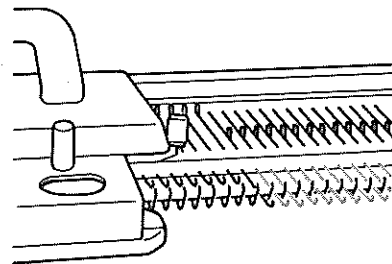


※ 編針のペラが開いてD位置に並びます。

9 糸を全部持って下へ軽く引きながら、キャリジを左へ移動します。

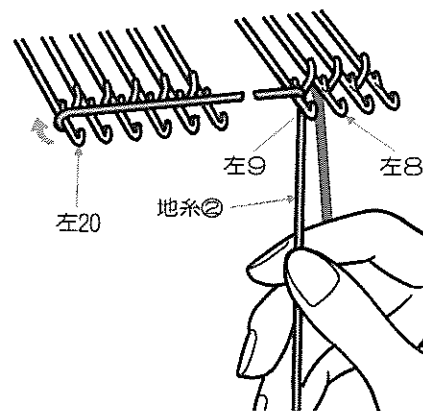


10 渡した編糸は編まれ再び編針がD位置に並びます。

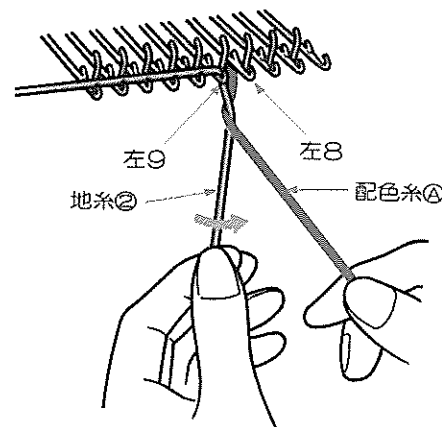


12段目

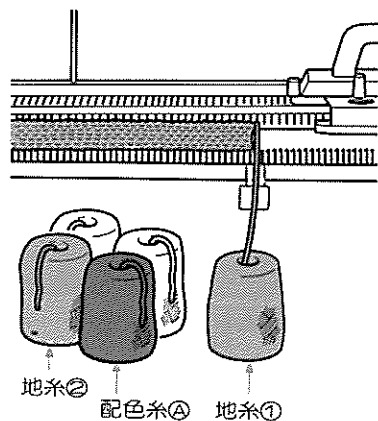
11 地糸②を左9と左8の針間まで渡します。



12 地糸②と配色糸④を交差します。

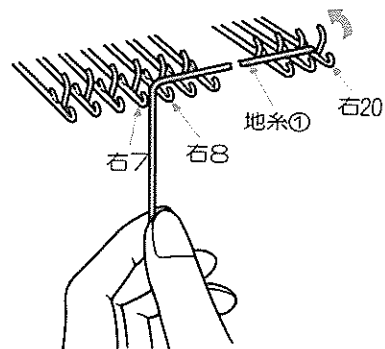


- 5 地糸、配色糸を交換する回数分だけ足元にそろえます。



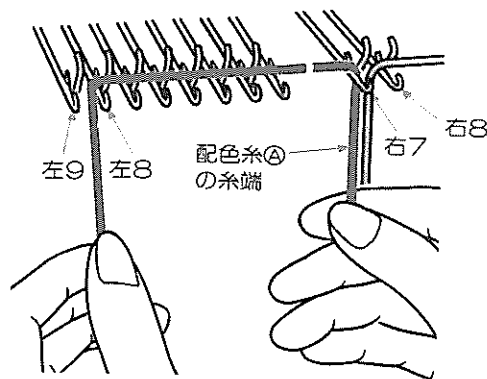
11段目

- 6 地糸①を右端針から右8までの針の上に渡し、右8と右7の針間にたらしめます。

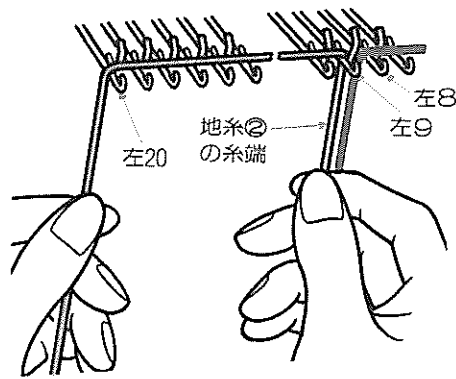


※糸を渡すときは、編針のペラが開いているか確認してください。閉じていると編目がおちます。

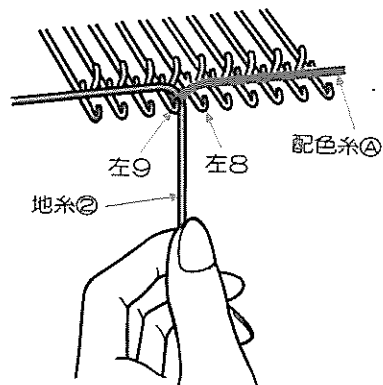
- 7 配色糸④を右8と右7の針間から左8と左9の針間まで渡します。



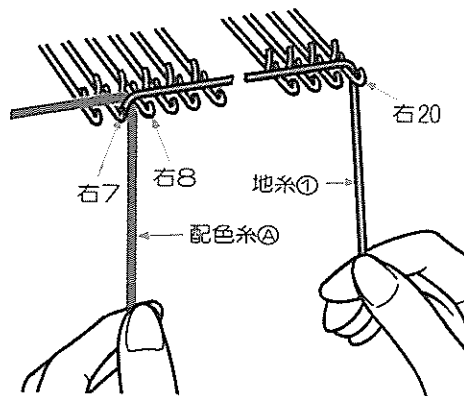
- 8 地糸②を左8と左9の針間から針出ししている左20の編針まで渡します。



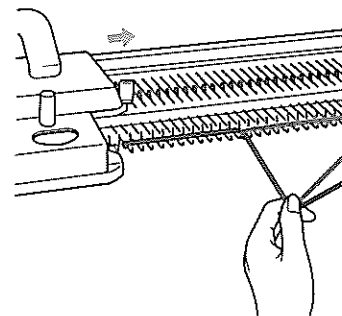
- 13 左9と左8の針間に交差部分ができるようにして配色糸④を渡します。



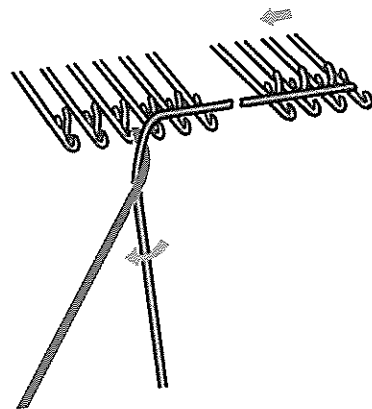
- 14 右7と右8の針間で12、13と同様に交差して地糸①を右20の編針まで渡します。



- 15 渡した糸全部を持って下へ軽く引きながら、キャリアジを右へ移動します。



- 13段目以後は12段目と同様に編んでいきます。キャリアジを右から左へ移動するときには下図のように交差します。

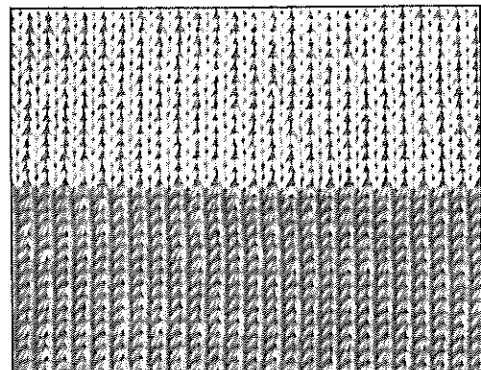


添え糸編

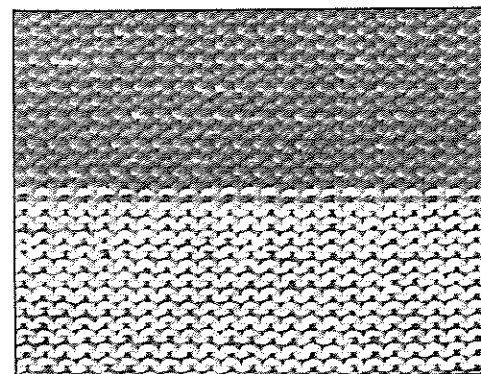
- 表目と裏目が異なった色で編めます。
- ここでは2色の中細毛糸(異なった色)で編んでみましょう。

- 地糸口の編糸が表目側に、添え糸口の編糸が裏目側にあらわれます。
- 次のような組み合わせが編めます。

使用毛糸	編目ダイヤル
中細 × 中細	1~5
並太 × 並太	6~10



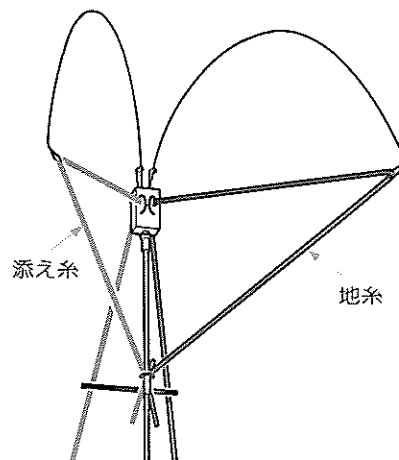
表



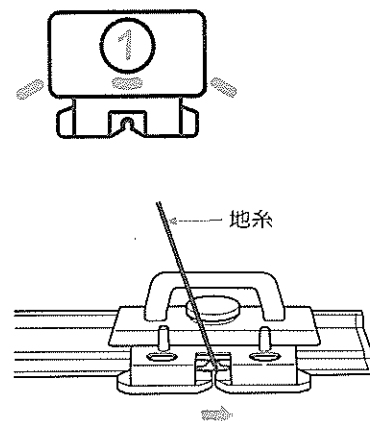
裏

糸 { 表目…中細
裏目…中細 } 編目ダイヤル { 平編…1
添え糸編…3 }

- 1 2本の編糸を糸取装置に通して糸カケに休めておきます。



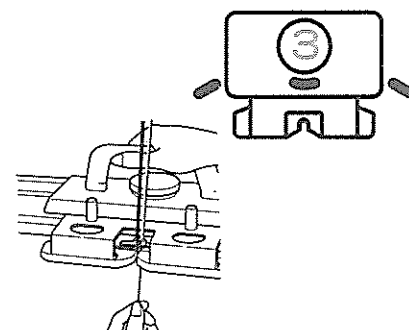
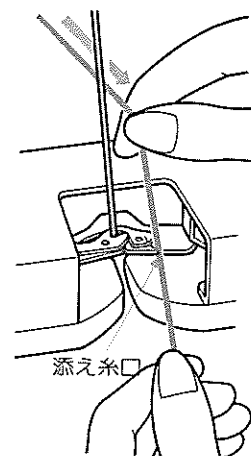
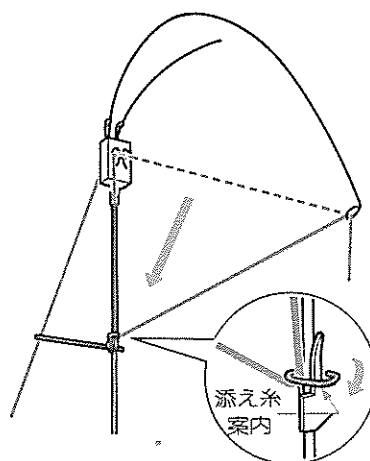
- 2 編目ダイヤル<1>で地糸をつかって数段平編を編み、ギャンジを右端へ置きます。



- 3 添え糸を添え糸案内にかけます。

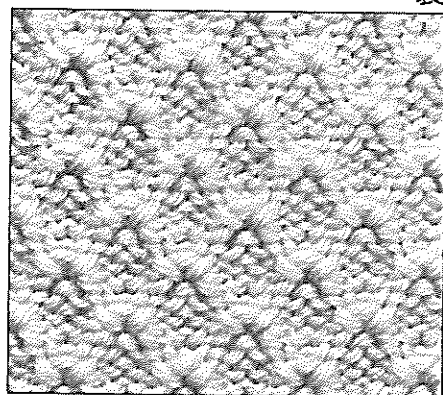
- 4 添え糸を地糸のうしろ側になるようにして、添え糸口へ入れます。

- 5 編目ダイヤルを<3>にし、平編と同様に編みます。



※地糸口と添え糸口および添え糸案内の編糸を入れ替えば表目と裏目の編糸は変わります。
※編地の両端にカラーウェイトをかけてください。

並太	4段
極太	3段
超極太	2段



糸……………極太 編目ダイヤル……………6

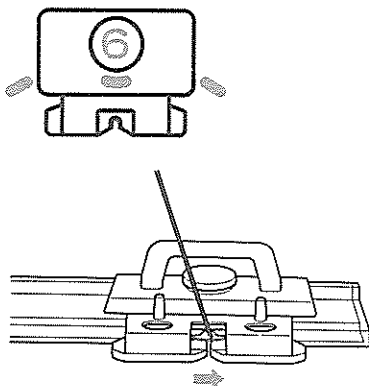
操作表

[illegible]

(1 模様 4 目 8 段)



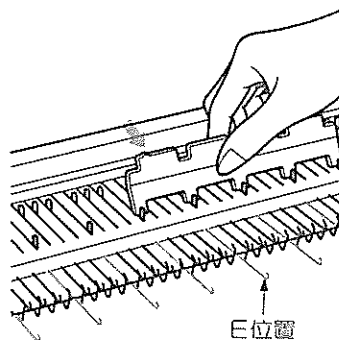
- 編目ダイヤル〈6〉で数段平編を編み、キャリジを右端へ置きます。



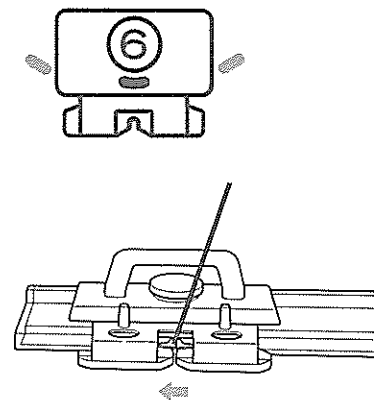
※引上げ編をする前に、編地の両端にもカラーウェイトをかけてください。

操作表の番号と対比させて編んでみましょう。

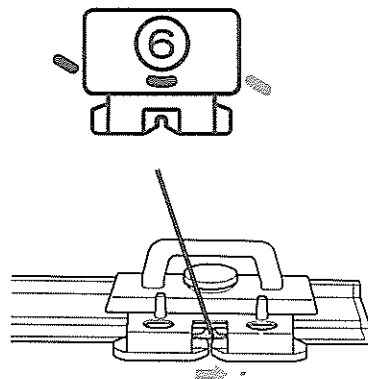
- ① 1/3の模様板で色めり部分の編針をE位置に出し、チェンジレバー左右を「ひきあげ・引返し」にしてキャリジを左へ移動します。E位置に出した編針の上に編糸が渡ります。



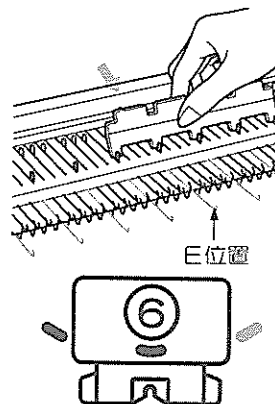
※編地の端針はE位置に出さない
てください。



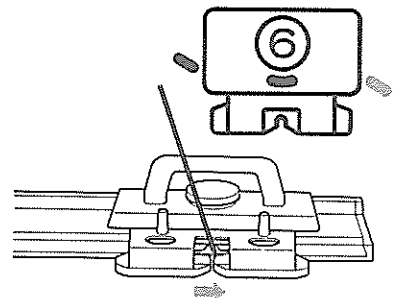
- ②キャリッジを右へ移動します。
- ③キャリッジを左へ移動します。
- ④チェンジレバー右を〈ひらあみ〉にして右へ移動します。



- ⑤色ぬり部分の編針をE位置に出し、チェンジレバー右をくひきあげ・引返し〉にしてキャリジを左へ移動します。

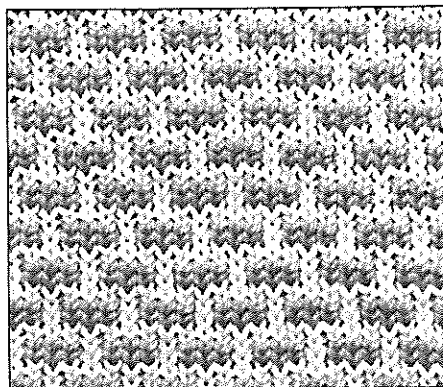


- ⑥キャラリジを右へ移動します。
- ⑦キャラリジを左へ移動します。
- ⑧チェンジ右を〈ひらあみ〉にして
右へ移動します。



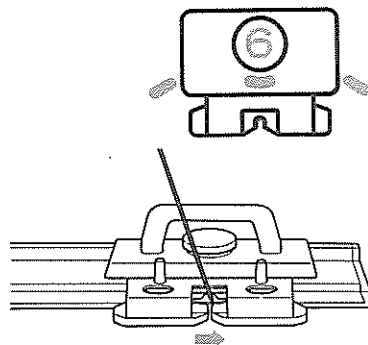
- ①～⑤を繰り返します。
※編地が長くなったらカラーウエイ
トを編地の端へかけ直してくださ
い。

表

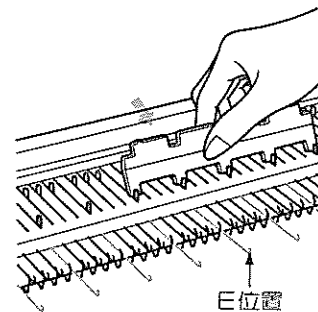


地糸……………極太 編目ダイヤル……………6
配色糸……………極太

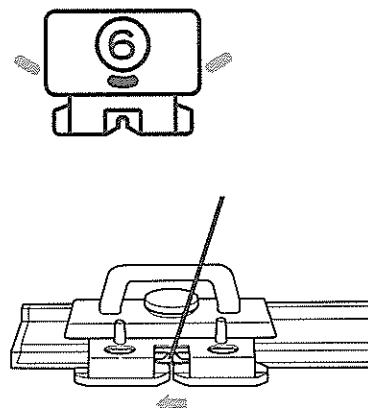
- 2本の編糸を糸取装置に通して糸力ケに休めておきます。
- 編目ダイヤル〈6〉で地糸を使って数段平編を編み、キャリジを右端へ回します。



※配色引上げ編をする前に、編地の両端にもカラーウェイトをかけてください。



※編地の端針はE位置に出さないで
ください。



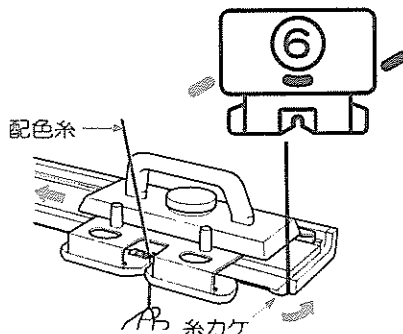
操作表

⑤	〃	〃	〃	〃	〃													→
⑦	平	〃	〃	配色糸	〃													←
⑥	〃	〃	〃	〃	〃													→
⑤	引	〃	〃	地 糸	〃													←
④	〃	〃	〃	〃	〃													→
③	平	〃	〃	配色糸	〃													←
②	〃	〃	〃	〃	〃													→
①	引	ひちあひ	6	地 糸	引													←

キヤリジ方向

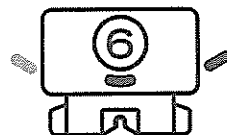
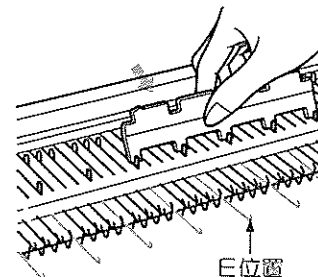
(1 模様 4 目 8 段)

- ③チェンジレバー左を〈ひらあみ〉にし、地糸をはずして本体右の糸カケにかけ、配色糸に入れ替えてキャリジを左へ移動します。

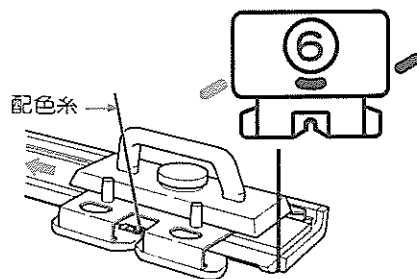


④キャリッジを右へ移動します。

- ⑤色ぬり部分の編針をE位置に出します。チェンジレバー左をくひきあげ・引返しにし、地糸に入れ替えてキャリジを左へ移動します。

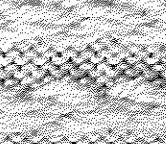


- ⑦チェンジレバー左を〈ひらあみ〉にし、配色糸に入れ替えてキャラジを左へ移動します。

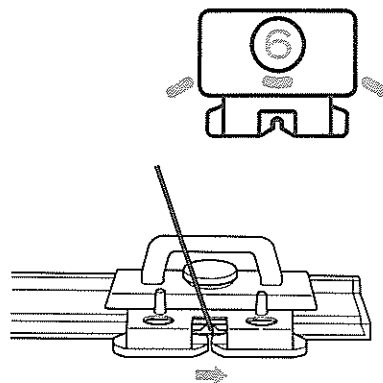


- ⑧キャラジを右へ移動します。
●①～⑧を繰り返します。
※地糸と配色糸が、からまないよう
に編糸を入れかえてください。

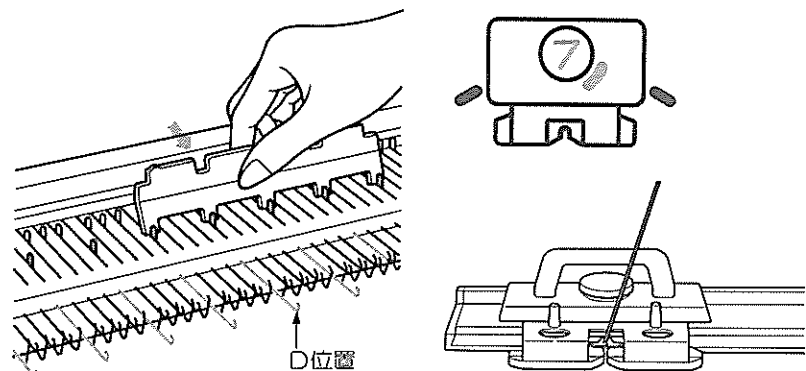
●ここでは極太毛糸を使い、 $\frac{1}{2}$ の選針をして左右に移動させた模様を編んでみましょう。



●編目ダイヤル<6>で数段平編を編み、キャリジを右端に置きます。



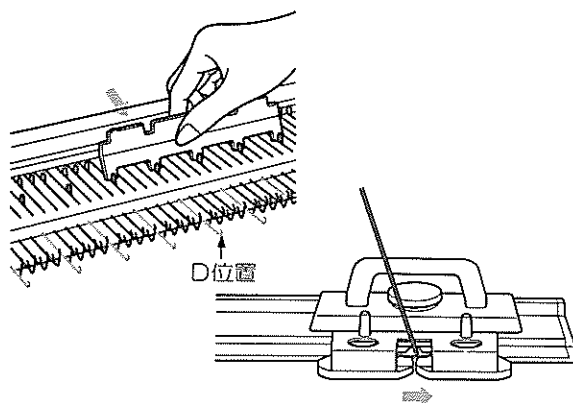
① $\frac{1}{3}$ の模様板で色ぬり部分の編針をD位置に出し、編目ダイヤル〈7〉で模様しパーを〈すべり〉にしてキャリジを左へ移動します。



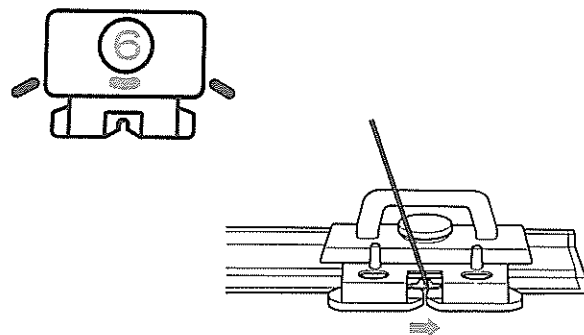
※編地の端針もD位置に出してください。

12	●	●	●	●	●	●													→
11	●	●	●	●	●	●													→
10	●	●	●	●	●	●													→
9	●	●	●	●	●	●													←
8	●	●	ひらあみ	6	●	●													→
7	●	●	●	●	●	●	■				■								←
6	●	●	●	●	●	●	■					■							→
5	●	●	●	●	●	●				■									←
4	●	●	●	●	●	●					■								→
3	●	●	●	●	●	●				■									←
2	●	●	●	●	●	●	■					■							→
1	平	すべり	7	地	糸	平	■				■								←
																			キヤリンの方向

②色ぬり部分の編針をD位置に出しキャリジを右へ移動します。



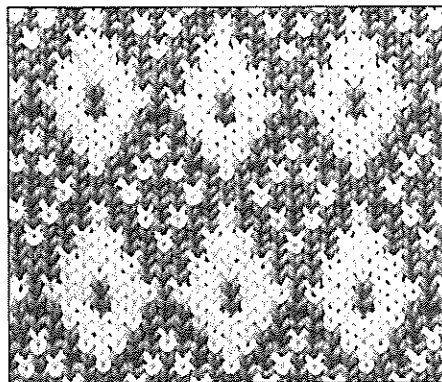
⑨編目ダイヤル〈6〉で模様レバーを〈ひらあみ〉にしてキヤリジを右へ移動します。



●①～⑫を繰り返します。

- 2色の編糸を使い、地糸口の編糸を2段ごとに入れ替えながら編む模様です。
- ここでは極太毛糸を使って編んでみましょう。

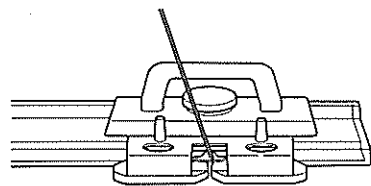
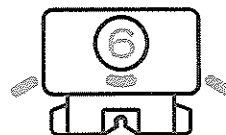
表



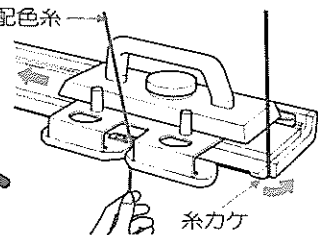
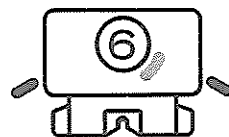
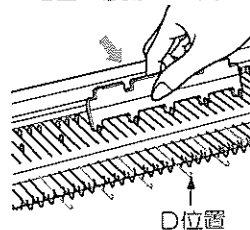
地糸……………極太 編目ダイヤル……………6
配色糸……………極太

操作表の番号と対比させて編んでみましょう。

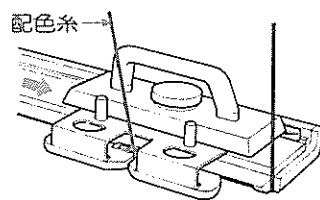
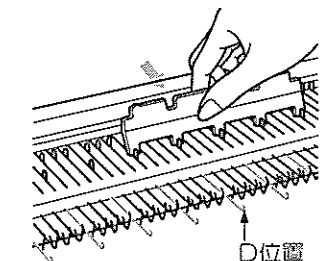
- 2本の編糸を糸取装置に通して糸カケに休めておきます。
- 編目ダイヤル〈6〉で地糸を使って数段平編を編み、キャリジを右端へ置きます。



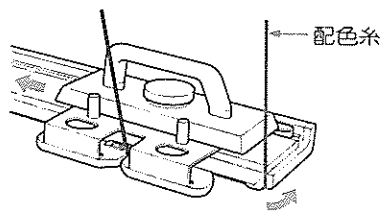
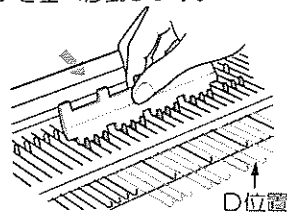
- ① 1/3の模様板で色めり部分の編針をD位置に出します。模様レバーを「くすべり」にし、地糸をはずして本体右の糸カケにかけ、配色糸に入れ替えてキャリジを左へ移動します。



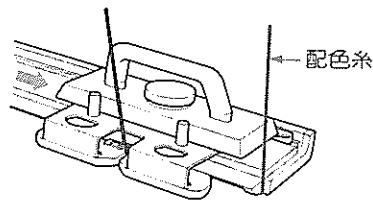
- ②再び①で出した編針をD位置に出し、キャリジを右へ移動します。



- ③地糸で編む編針（配色糸で編まなかった編針）を $\frac{3}{4}$ の模様板でD位置に出し、地糸に入れ替えてキャリジを左へ移動します。



- ④再び③で出した編針をD位置に出し、キャリジを右へ移動します。



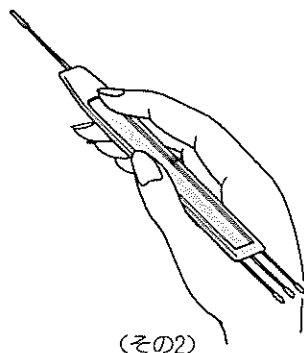
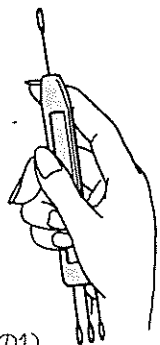
- ⑤操作表に従って④まで編みます。
●①～④を繰り返します。

ウツシの使い方

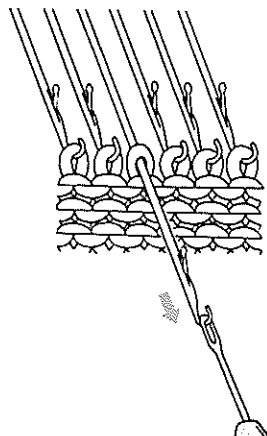
●ウツシは増し目、減らし目、移し目などに使います。

●ウツシの持ち方

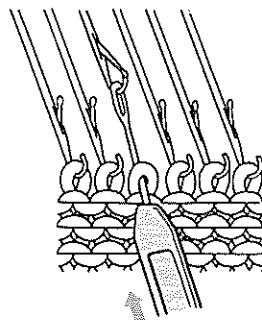
2つの持ち方があります。自分が使いやすいと思われる方法で行ってください。



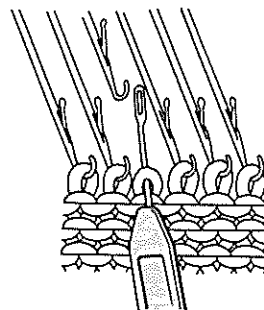
1 編針が止まるまで手前に引きます。



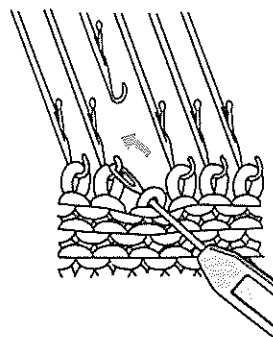
2 まっすぐ編針をもどすと、編目がウツシに移ります。



3 ウツシの先をはずします。



4 移したい編針のフックにウツシの穴をかけ、編目を移します。



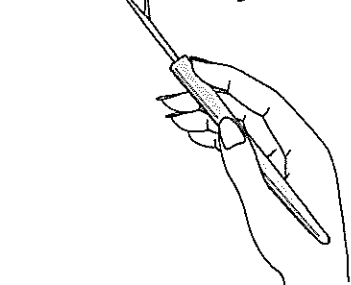
タツピの使い方

●タツピはゴム編や編目があちたときなどに使います。

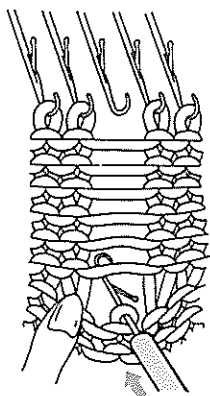
●タツピの持ち方

ペラが上になるように、鉛筆を持つようにして持ちます。

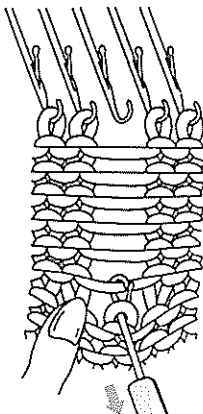
フック ← ペラ



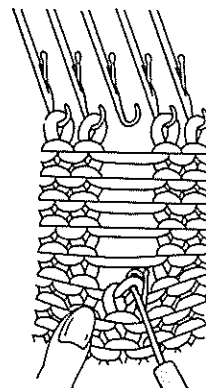
1 編目にペラが通り抜けるまでタツピを差し込みます。



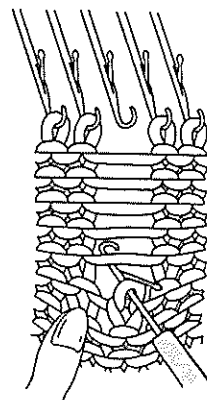
2 タツピを手前に引いて、上段の横糸をフックにかけます。



3 そのまま引くと編目ができます。



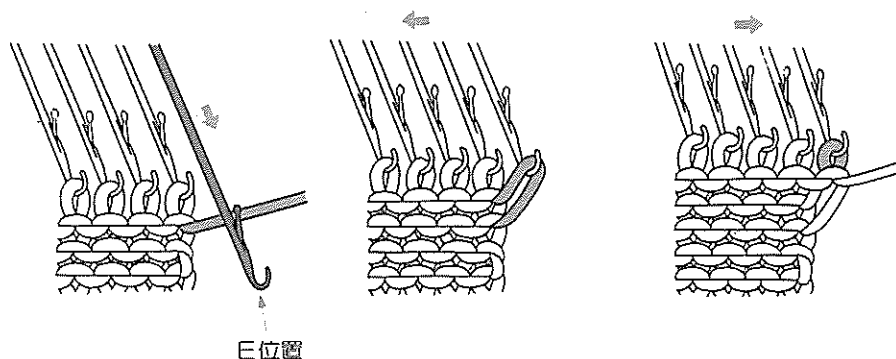
4 さらにタツピを差し込み1～3を繰り返します。



編目の増し方

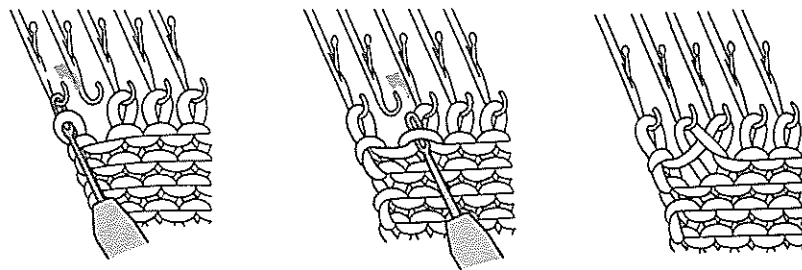
● 1 目端で増す場合——キャリジがある側

- 1 増し目をする編針をE位置に出します。
- 2 キャリジを左へ移動します。
- 3 キャリジを右へ移動します。



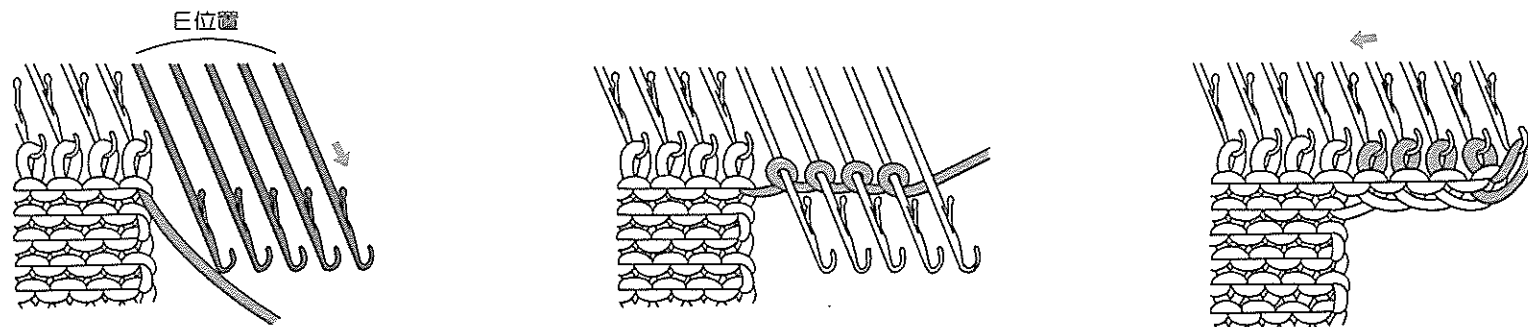
● 1 目内側で増す場合

- 1 端の1目を1目外側の編針に移します。
- 2 端から2本目の編針の1段下の編目を引き上げます。
- 3 編目を移します。



● 2 目以上増す場合——キャリジがある側

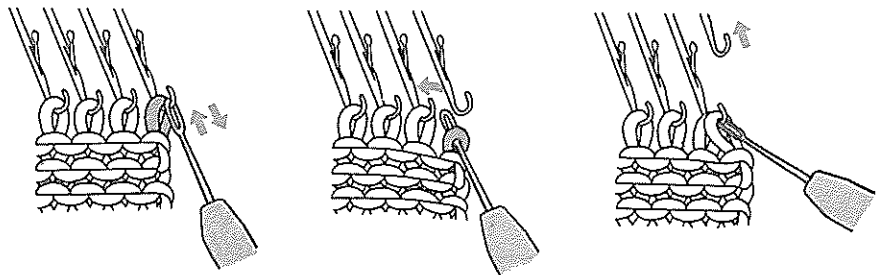
- 1 増し目をする編針をE位置に出します。
- 2 巻き目をして最後の編針は、下をくぐらすだけにします。
- 3 キャリジを左へ移動します。



編目の減らし方

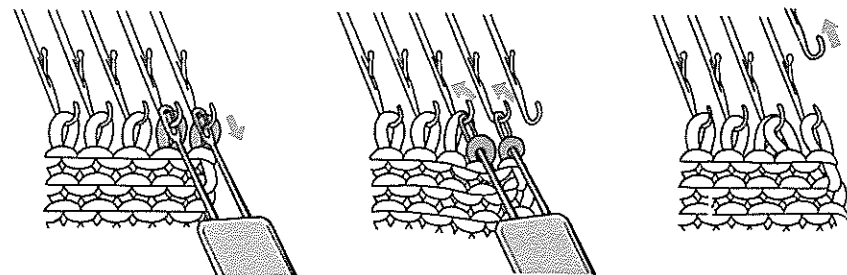
● 1 目端で減らす場合

- 1 端の目をウツシに移しとります。
- 2 内側の編針に移します。
- 3 カラ針をA位置にもどします。



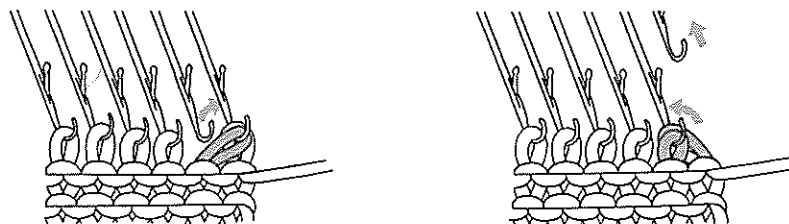
● 1 目内側で減らす場合

- 1 2本針のウツシを使い、端の2目を同時に移しとります。
- 2 内側へ1針分ずらし編針に移します。
- 3 カラ針をA位置にもどします。

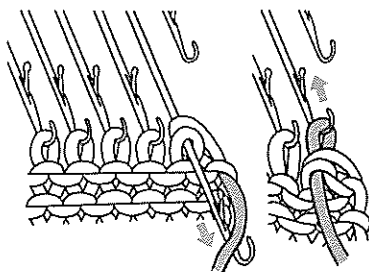


● 2目以上減らす場合——編糸がある側

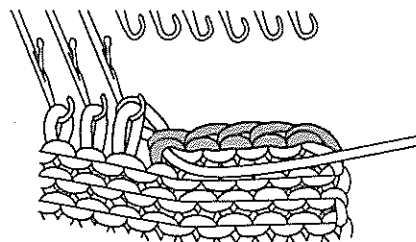
- 1 ウツシを使って端から2本目の編目を端の編針に移します。
- 2 端の重なった2目を同時に2本目の編針に移します。カラ針はA位置へもどします。



- 3 端の編針をべら抜ける位置まで出し、編糸をかけてB位置へもどします。

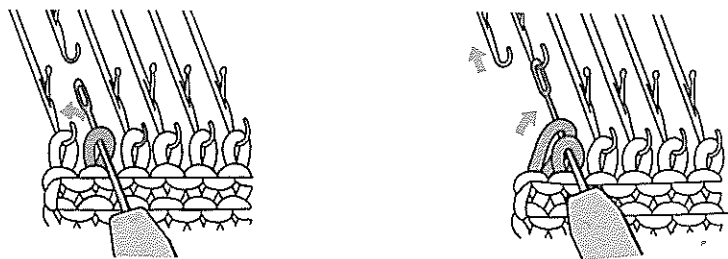


- 4 減らし目する編目の数だけ1～3を繰り返します。

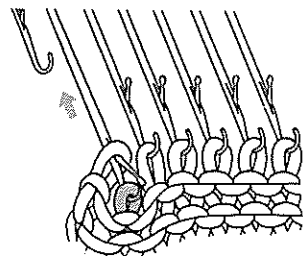


● 2目以上減らす場合——編糸がない側

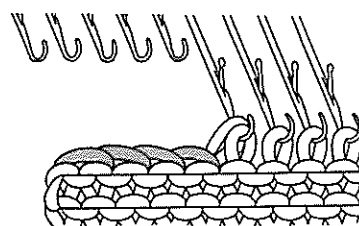
- 1 ウツシを使って端から2本目の編目を端の編針に移します。
- 2 端の重なった2目を同時に2本目の編針に移します。カラ針はA位置へもどします。



- 3 重なった2目の内、編機側の目をべら抜かせて編針をB位置にもどし編目を作ります。



- 4 減らし目する編目の数だけ1～3を繰り返します。

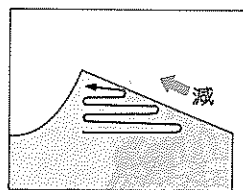
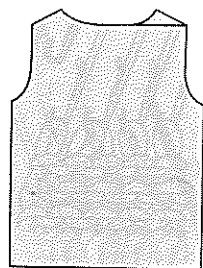


引返し編 (平編の引返し編)

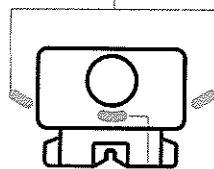
● 増し目、減らし目の一種でツツシなどを使わず、編針の休止位置を利用して行います。

● 編む部分を減らしてゆく場合

肩下りなどの傾斜した部分を編むときに使います。

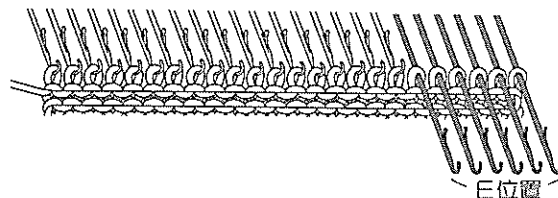


ひきあげ・引返し

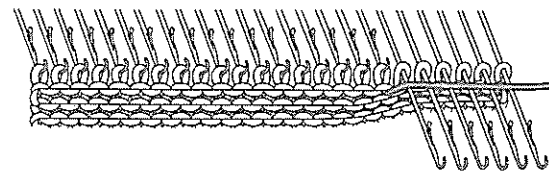


ひらあみ

1 キャリジと反対側の休める部分の編針をE位置に出します。

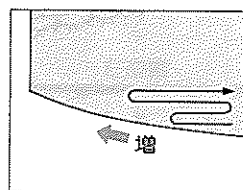
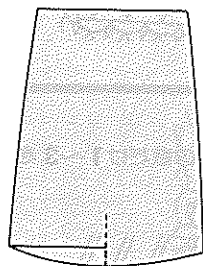


2 1段編みます。B位置の編針が編めて、E位置に出した編針の上に編糸が渡ります。

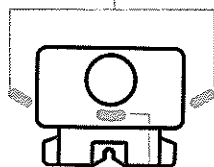


● 編む部分を増してゆく場合

スカートのスそなどの傾斜した部分を編むときに使います。

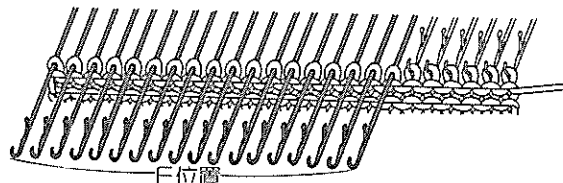


ひきあげ・引返し

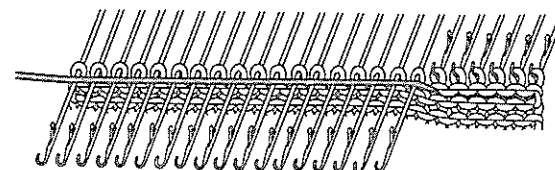


ひらあみ

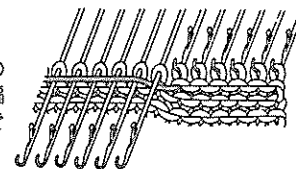
1 キャリジと反対側の休める部分の編針をE位置に出します。



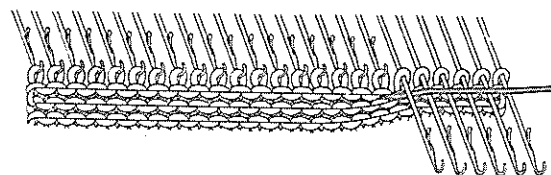
2 1段編みます。B位置の編針が編めて、E位置に出した編針の上に編糸が渡ります。



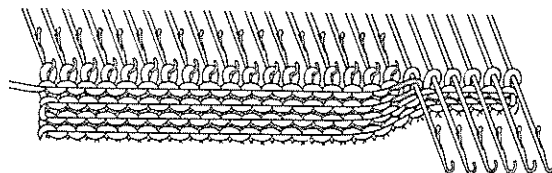
編み終わりのとなりのE位置に出してある編針の下から編糸をくぐらせます。



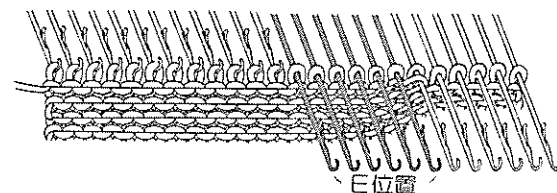
- 3** 編み終わりのとなりのE位置に出してある編針の下から編糸をくぐらせます。



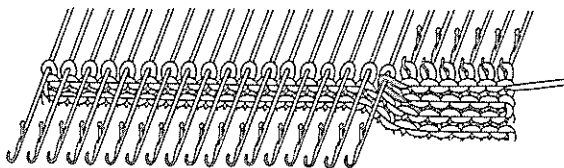
- 4** 1段編んでもどります。



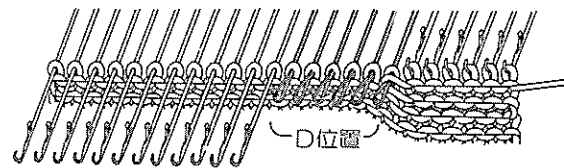
- 5** 次に休める編針をE位置に出し、繰り返し編み進みます。



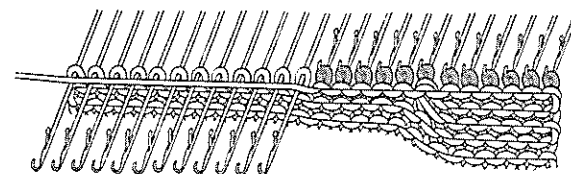
- 3** 1段編んでもどります。



- 4** 次に編む部分の編針をD位置にもどします。

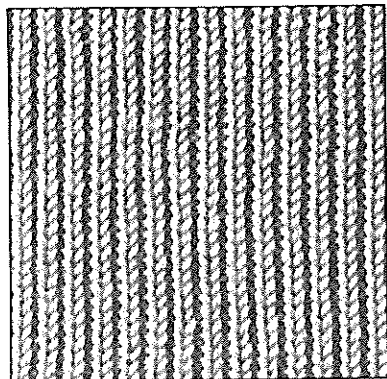


- 5** キャリッジを移動するとD位置にもどした編針まで編めますから、繰り返し編み進みます。

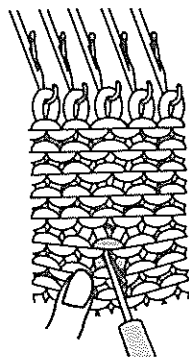


1目ゴム編

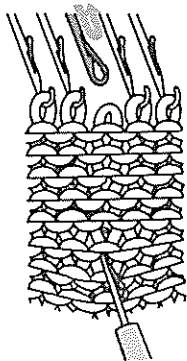
●タッピを使って1目おきに平編の裏目を表目に直していく編み方です。



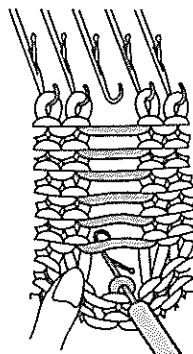
1 表目に直す最初の段の編目にタッピのフックを入れます。



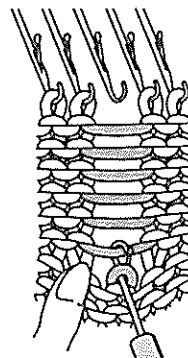
2 編針のバットをつまんで編針を前後させ、編目ははずします。



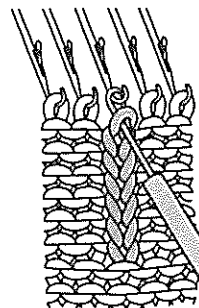
3 編地を下に引き編目をほどこきます。



4 タッピを手前に引いて、上段の横糸をフックにかけて編目を作ります。



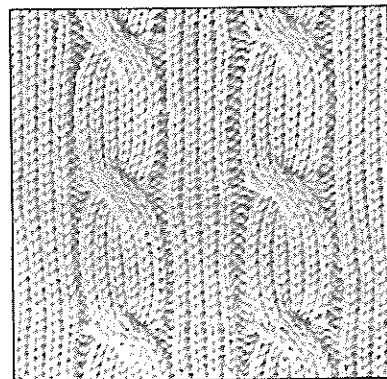
5 繰り返し編目を作って、最後の編目を編針にかけます。



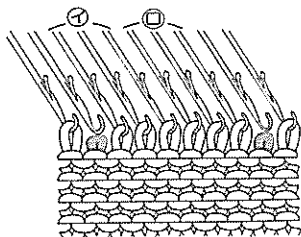
なわ編 (交差模様)

●編目を交差させて模様を作ります。

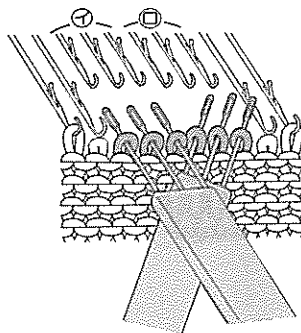
●ここではウツシの1×3、2×3の3本針側を利用します。



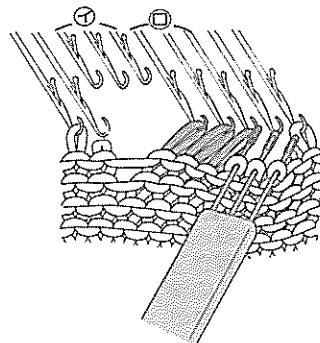
1 平編を9段編み、交差させる編目(㊦㊧)の両隣の編目を、1目ずつ編針からはずします。



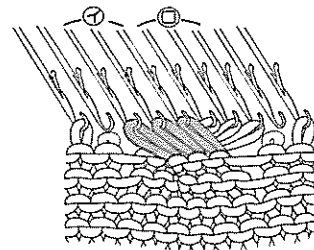
2 交差させる㊦と㊧の部分の編目3目ずつをウツシにとります。



3 ㊦の編目を㊧のカラ針に移します。



4 ㊧の編目を㊦のカラ針に移します。



5 交差させた編目の両隣の編目を、9段下からタッピを使って表目に直します。

6 1～5を繰り返します。

1目ゴム編止めからの編み出し方

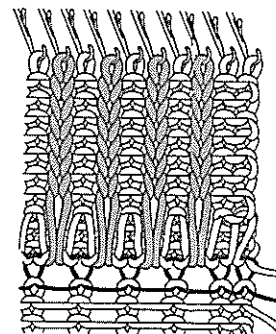
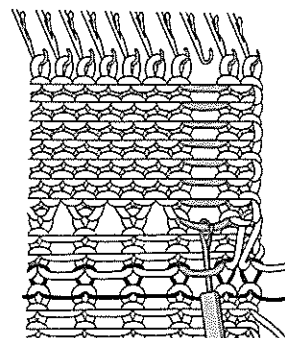
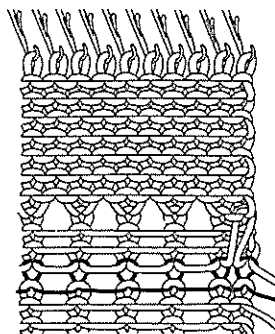
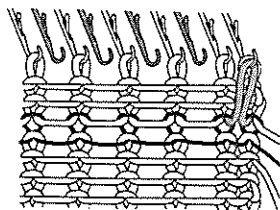
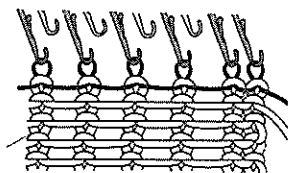
1 編針を1本おきにB位置に出し(右端は2本)、数段捨て編をして抜き糸で1段編みます。

2 地糸で3段編みます。右端2本の間の編み始めのシンカーをツツシで端目に重ね、A位置の編針をB位置に出します。

3 希望の段数だけ平編をします。

4 右から3本目の編針から編目をはずし、表目に直します。

5 1目おきに表目に直します。



捨て編

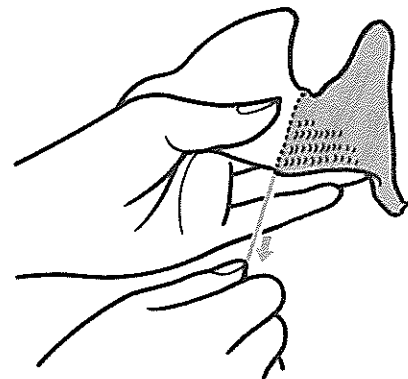
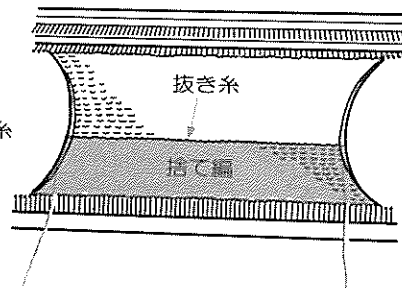
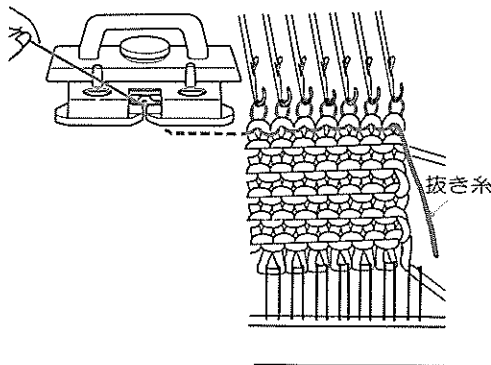
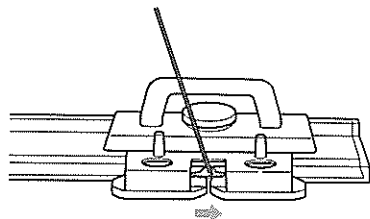
- 編みあがった作品の編目がほどけないようにするため、余分に編んでおく平編の部分をいいます。
- 作品を編み始める前と、編み終わって編機からはずす前とに、作品に使用する以外の糸で10段ほど編みます。

1 捨て編をする編糸で10段ほど編み、キャリジを右端へおきます。

2 編地から5cmほど残して編糸を切り、付属の抜き糸を地糸口に通して左へ1段編みます。

3 地糸口から抜き糸をはずし、作品を編む編糸を使って編み始めます。

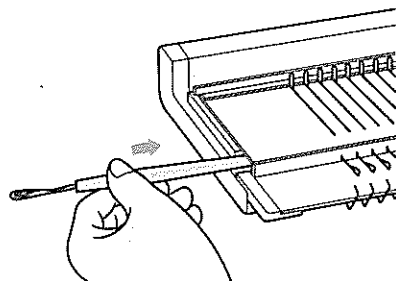
4 抜き糸を引き抜けば、捨て編部分は作品からはずれます。



編針が曲がってしまったときには

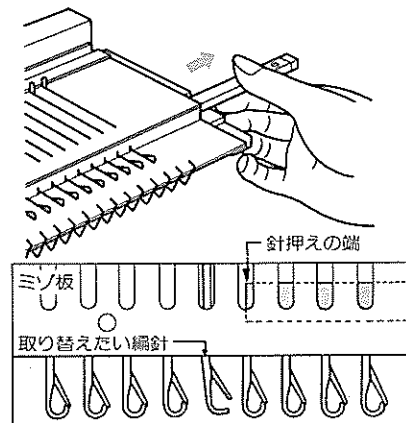
1 針押えを押し出します

針押えをタッピの柄を使って押し出します。

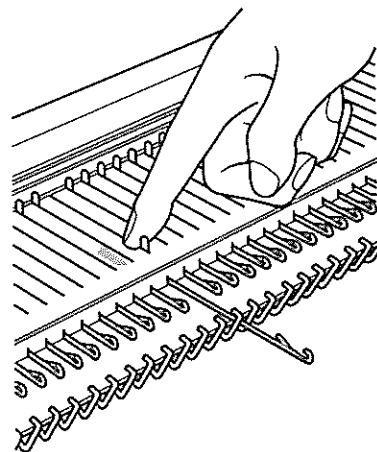


2 針押えを引き抜きます

針押えの端が取り替えたい編針を通り過ぎるところまで引き抜きます。

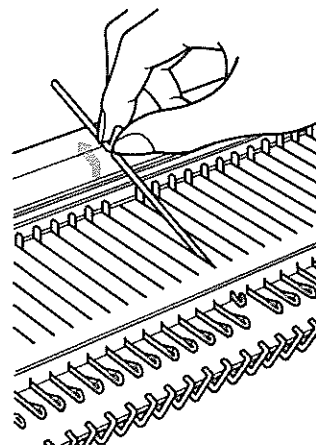


3 編針をE位置まで出します



4 編針を引き抜きます

編針をつまんで、後へ引き抜きます。

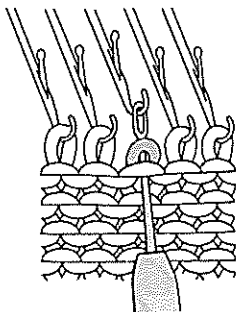


編目がおちてしまったときには

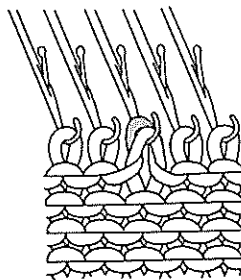
● 1 段おちた場合

おちた編目の1段下の編目を拾い上げ、編針にかけて編目を作り直します。

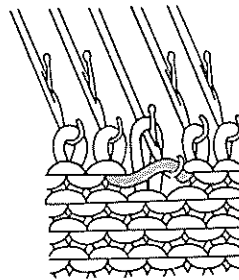
1



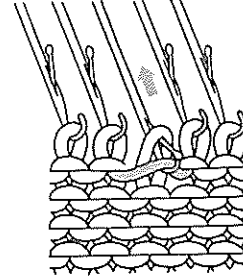
2



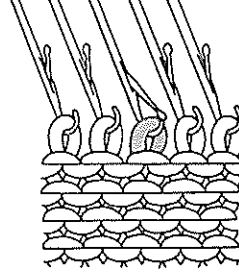
3



4

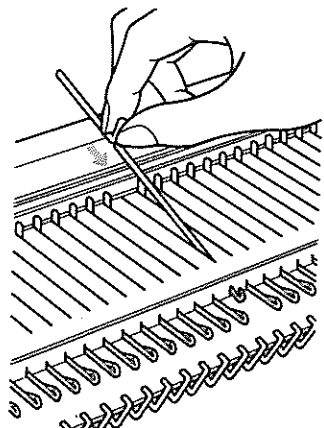


5

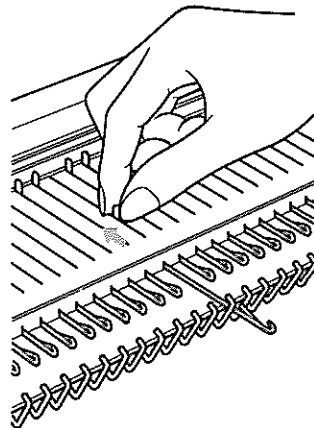


5 新しい編針を入れます

編針をミソ板の中に入れ、そのままE位置まで差し込みます。

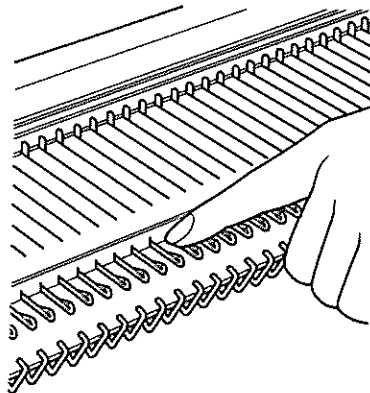


6 編針をもどします

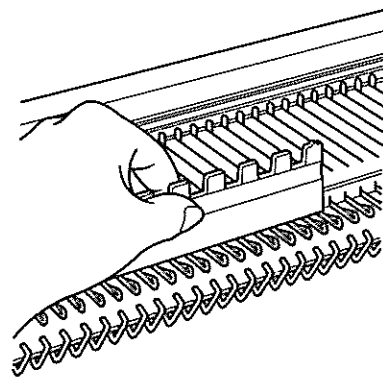


7 針押えを押し込みます

取り替えた編針の先を押さえて、針押えを押し込みます。

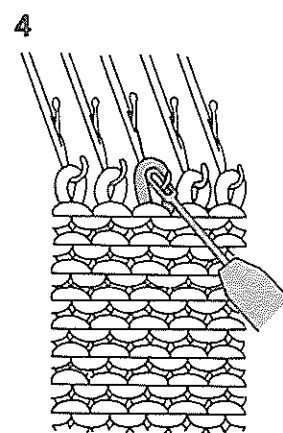
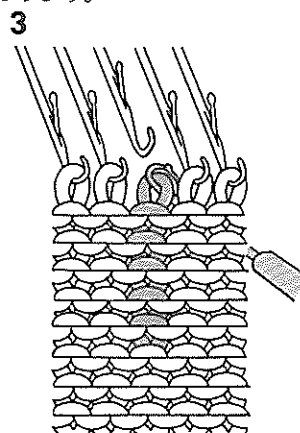
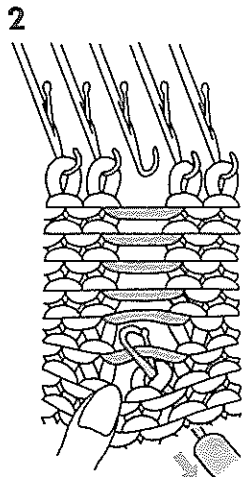
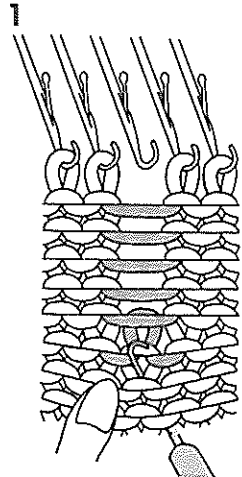


●フック部分の浮き上っている編針が多い場合
模様板を使って編針の先を押さえ、
針押えを押し込みます。



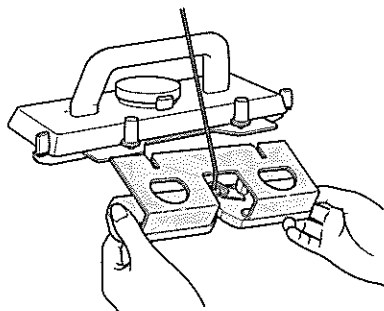
●数段おちた場合

編地の向こう側から、タツピを使って編目を作り直し、最後はウツシに変えて編針にかけます。

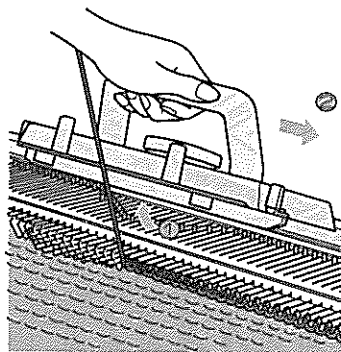


編んでいる途中でキャリジが動かなくなったときには

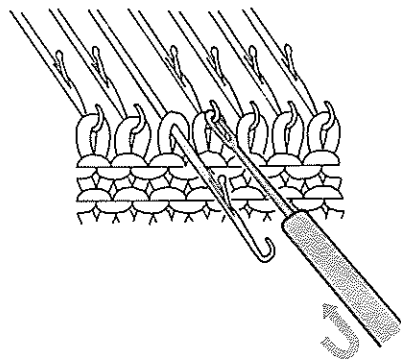
1 編地押えをはずします



2 ①キャリジの手前を持ち上げ ②端までもどします。

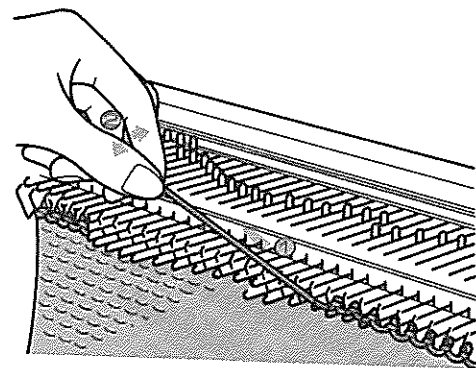


3 フックに編目をもどします ベラの向こう側にある編目を フックの中にもどします。



4 編糸をほどきます

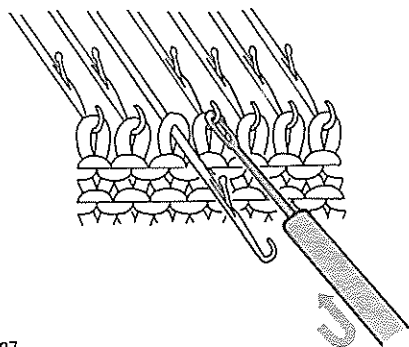
- ①編方向へ編糸を引っ張り
- ②前後に振って編目をほどきます。前の段の編目はフックにかかります。



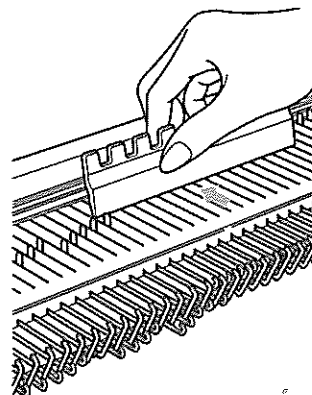
※ 編針をもとの位置にもどしてから編み始めます。

キャリジをカラ送りするには ● 編み間違えたときなどに利用します。

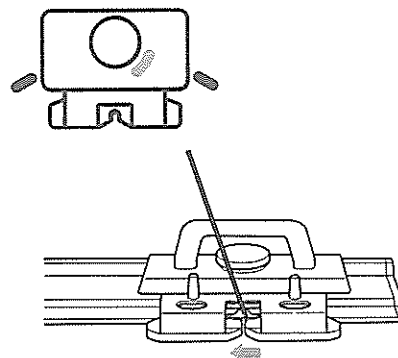
1 フックに編目をもどします ベラの向こう側にある編目をフックの中にもどします。



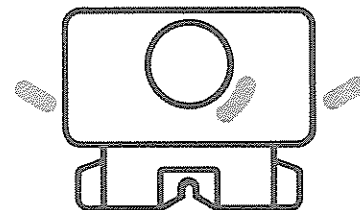
2 編針をB位置にそろえます



3 キャリジを移動させます 模様レバーを〈すべり〉にして カラ送りします。

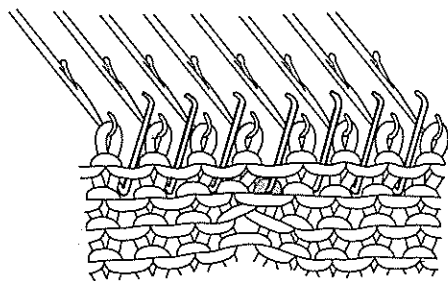


● 編針がB位置とE位置にある場合 チェンジレバーを〈ひきあげ・引返し〉にして、カラ送りします。

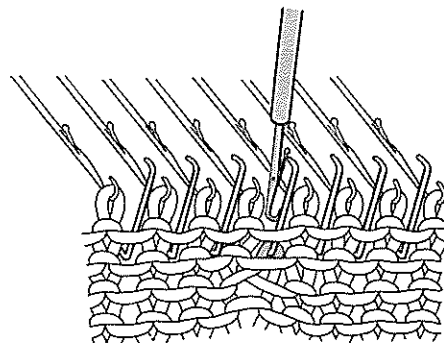


編糸がクシバにかかってしまったときには

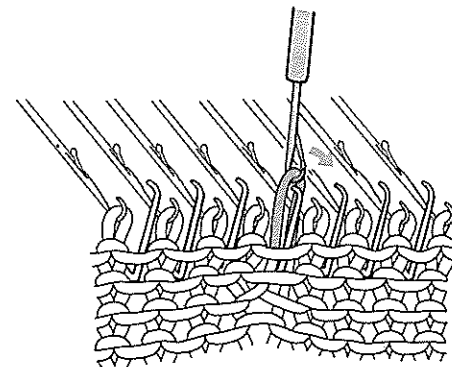
● 編糸がクシバにかかったまま編むと、編目がつた状態になります。



1 タッピをベラが手前にくるように持ちます。

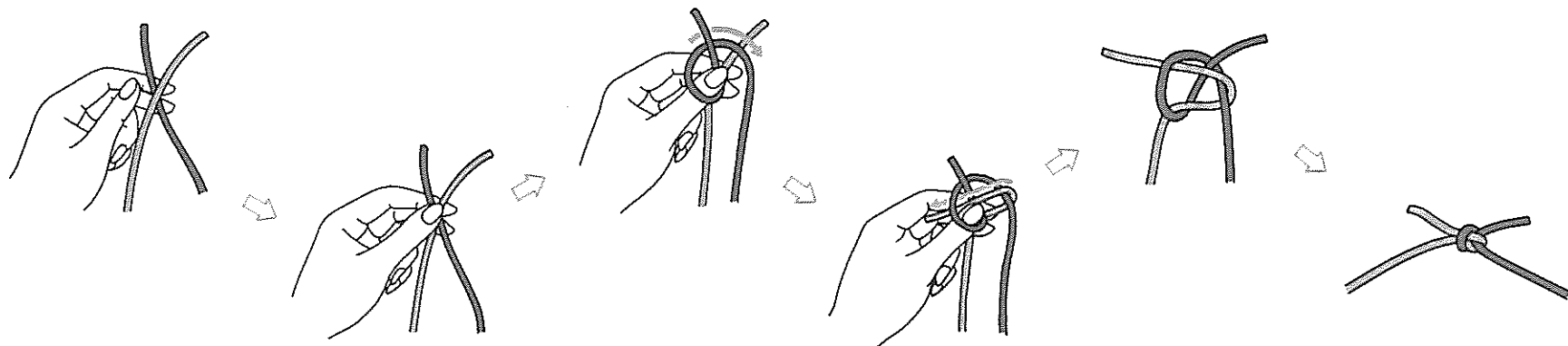


2 クシバにかかっている編糸を引っ掛け、手前へはずします。



編んでいる途中で編糸がなくなったときには

結び目をもっとも目立たない「はた結び」にします

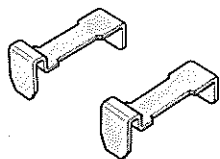


ニットリーダーをご利用の場合

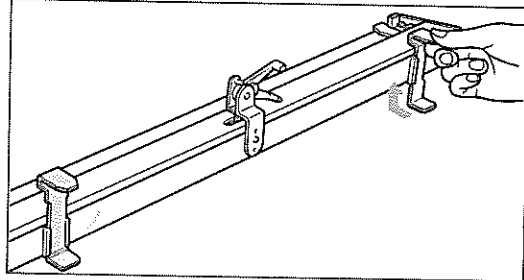
●この編機にはニットリーダーはついていませんので右記お手持ちのニットリーダーをご使用ください。

●取り付け方

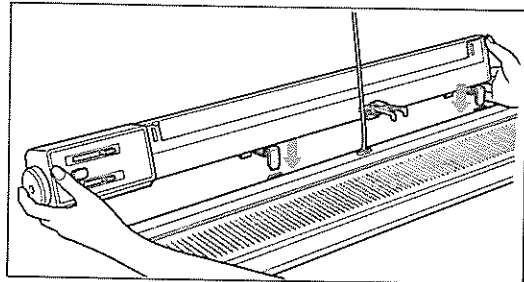
- 1 本機に付属されているリーダー取付金を部品箱より取り出します。



- 2 取付金をニットリーダーの取付部に差し込みます。



- 3 ニットリーダーの取付金を編機後側のリーダー取付部に差し込みます。

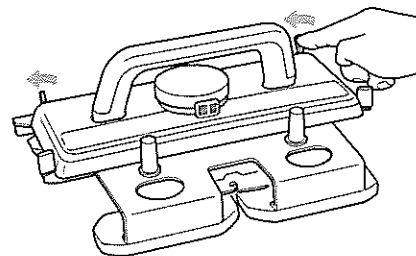


※このあとの取り付け方は、使用するニットリーダーの取扱説明書をご覧ください。

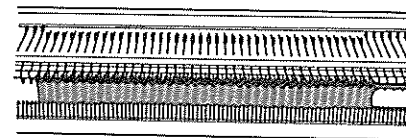
●編ゲージの作り方

作品を希望の大きさに編み上げるためには、作品に使う糸で編地を編み、編目の大きさを知る必要があります。
目数（横方向）20目、段数（たて方向）30段の長さを測り、その長さを編ゲージとします。

- 1 段数計の数字を000にセットします。
- 2 左右のギャリジ作動レバーを下げます。



- 3 針目盛の中心より左20～右20までの編針をB位置に出し、地糸で平編を10段編みます。

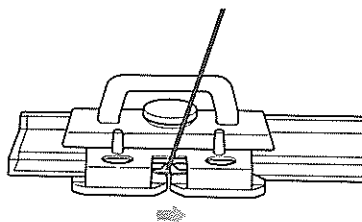


段数計は

0 1 0

を示します

- 8 さらに15段編みます。

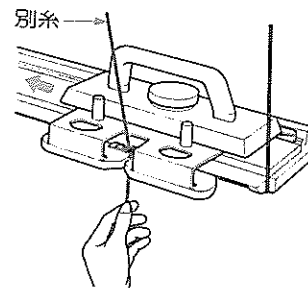


段数計は

0 4 2

を示します

- 9 地糸をはずして糸カケに休め、別糸で2段編み別糸を切ります。

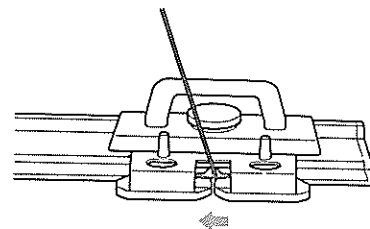


段数計は

0 4 4

を示します

- 10 休めてあった地糸を地糸口に入れ10段編みます。



段数計は

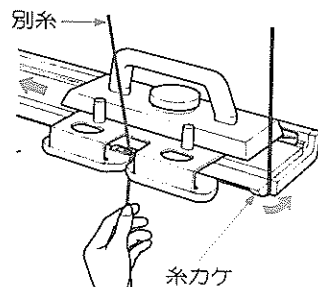
0 5 4

を示します

●パリエ用ニットリーダー（別売用KL-117型ニットリーダー及びKH-811・KH-821・KH-831・KH-851用ニットリーダー）

●ニットリーダーをご使用の場合は、ギャロジの作動レバー左右を下げてください。

- 4 地糸をはずして糸カケに休め、別糸（色違いの編糸）で2段編みます。



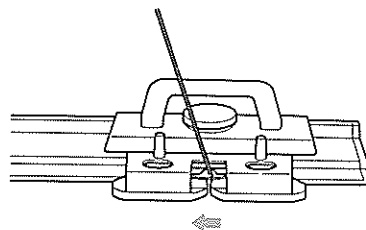
段数計は



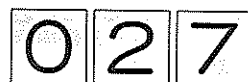
を示します

※編んだあとは、別糸を切って糸取装置の糸カケに休めておきます。

- 5 休めてあった地糸を地糸口に入れ15段編みます。

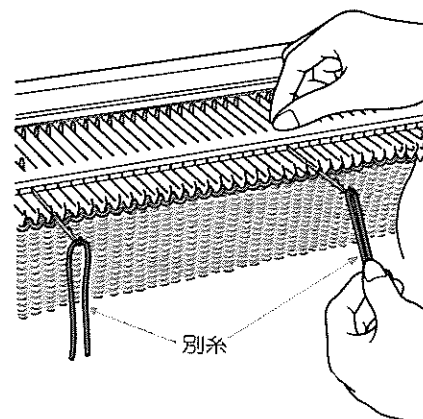


段数計は

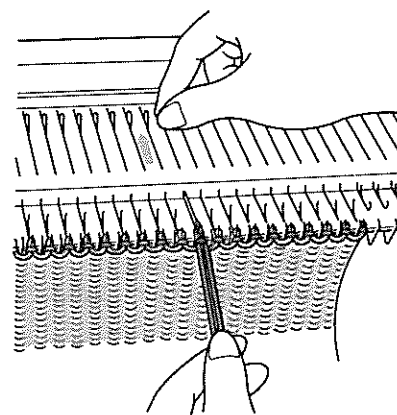


を示します

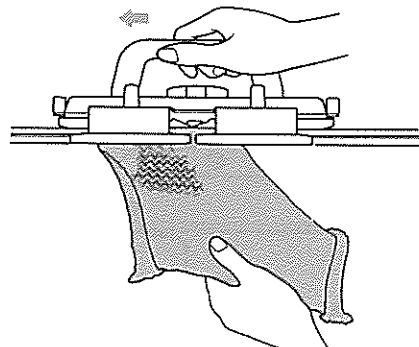
- 6 針目盛の中心より左右11本目（針目盛のハ印の編針）の編針を1本ずつE位置に出し、別糸の糸端を10cmほど2本切ってE位置の編針にかけます。



- 7 E位置の2本の編針をB位置までもどし、編目を作ります。

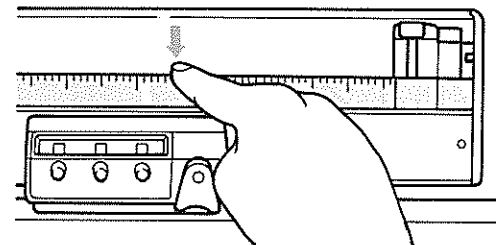
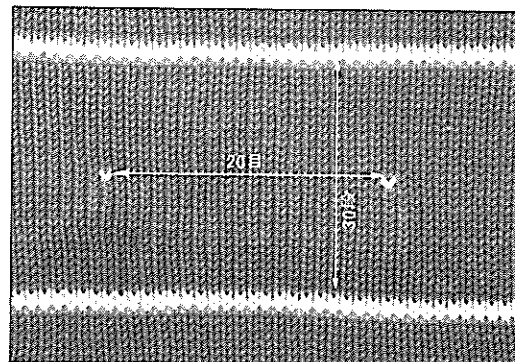


- 11 地糸を地糸口からはずして切り、ギャロジを移動して編地をはずします。



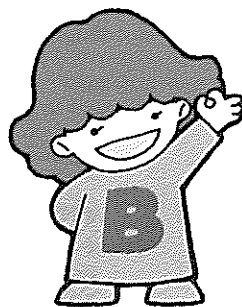
●編ゲージをセットする場合は

編ゲージにスチームアイロンをかけたあと、①段数（たて方向…別糸の内側30段）の長さを測り、ゲージツマミをセットします。②目数（横方向…別糸の内側20目）の長さを測り、本機〈ナイン〉付属の編目スケールから選んでニットリーダーにセットします。



編機の手入れと保存

いつまでも
かわいがってくださいね。



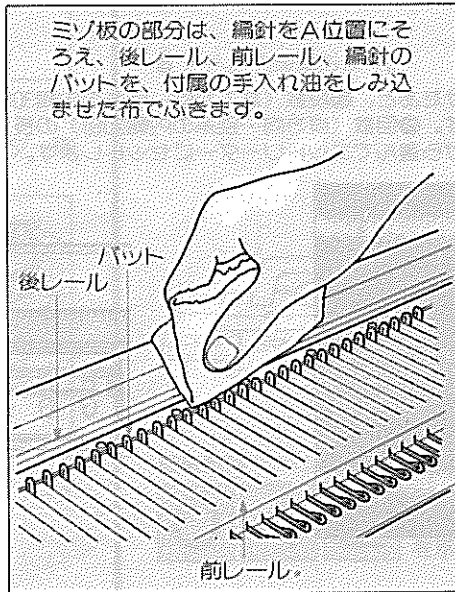
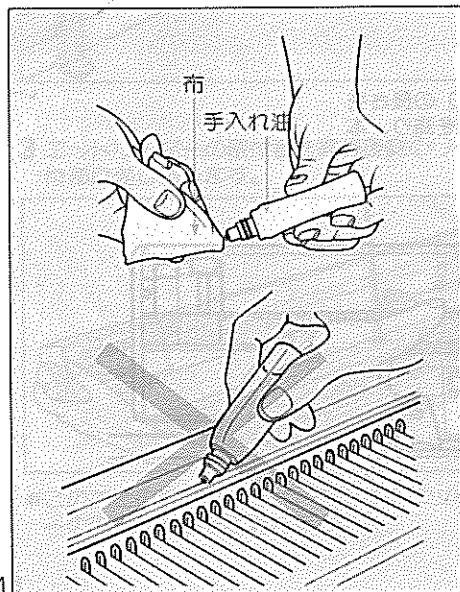
●いつもきれいに……。

- キャリジカバーやケースのよごれは、布でふき取ってください。
- ミゾ板のよごれも布でふき取ってください。
- ミゾ前板のほこりは、付属の手バケでとりのぞいてください。

●編機の大敵

- シンナー、ベンジン、ガソリンなどは絶対に使わないでください。
- 保管するときは、湿気のないところを選んでください。

- 編機を長く保存しておいて再び使用するときは
油をしみ込ませた布でよくふき取り、古い毛糸で20
～30段平編を編んでからご使用ください。



キャリジの裏側は下図の点線部分にそって、手入れ油をしみ込ませた布でふきます。
キャリジの操作が重いときもふいてください。

